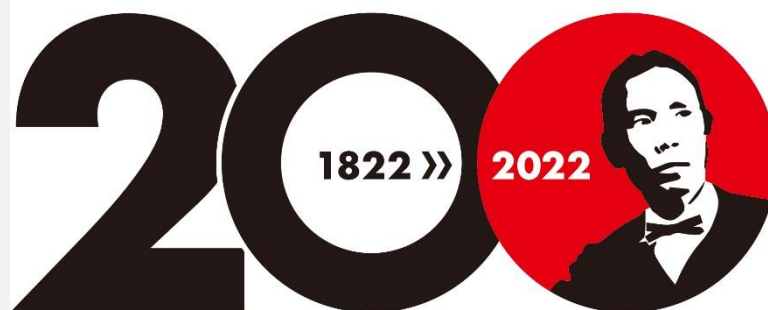


# 令和3年度事業報告

博愛のこころを未来へ



佐野常民 生誕200年

## 日本赤十字社の使命

わたしたちは、  
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、  
いかなる状況下でも、  
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

## わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

## わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、  
人道の実現のために、  
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、  
人の痛みや苦しみに目を向け、  
常に想像力をもって行動します。

# 目 次

ページ

## OMission statement

○ 目 次	1
○ 令和3年度 事業報告（はじめに）	3
1 国内災害救護体制の強化	6
(1) 災害救護活動	6
(2) 救護体制の整備	10
(3) 災害救護訓練等の実施	11
(4) 防災教育事業指導者の育成と赤十字防災セミナーの開催	15
(5) 赤十字防災ボランティアとの連携	16
(6) 救護資機材の整備	17
(7) 災害見舞金・見舞品の贈呈	18
(8) 国内義援金	19
(9) 臨時救護	19
2 海外における救援活動や開発協力	20
(1) 本社の活動	20
(2) 佐賀県支部の活動	22
3 赤十字講習事業の普及	24
(1) 救急法	24
(2) 水上安全法	25
(3) 健康生活支援講習	25
(4) 幼児安全法	25
(5) 講習資機材の貸し出し	26
(6) 指導員研修会	26
(7) 講師研修会	26
4 青少年赤十字（JRC）の活動	27
(1) 青少年赤十字加盟校の構成	27
(2) 活動状況	29
5 赤十字ボランティアによる活動	36
(1) 地域赤十字奉仕団	36
(2) 青年赤十字奉仕団	36
(3) 特殊赤十字奉仕団	37
(4) 活動状況	38
(5) 奉仕者功労表彰	41

<b>6</b>	<b>赤十字思想の普及と広報体制の充実</b> ……………	<b>43</b>
(1)	令和3年度全国赤十字大会……………	43
(2)	令和3年度九州八県赤十字大会……………	43
(3)	赤十字運動イベント……………	42
(4)	博愛フェスタ2021……………	44
(5)	佐野祭……………	45
(6)	防災・減災プロジェクト「ACTION!防災・減災」……………	46
(7)	その他の広報活動……………	46
<b>7</b>	<b>活動資金募集の推進と財政基盤の強化</b> ……………	<b>49</b>
(1)	会員数……………	49
(2)	有功章社員数及び特別社員数……………	49
(3)	赤十字会員増強運動……………	49
(4)	令和3年度活動資金募集実績……………	50
<b>8</b>	<b>支部評議員会の開催</b> ……………	<b>52</b>
<b>9</b>	<b>医療事業の充実（唐津赤十字病院）</b> ……………	<b>53</b>
(1)	令和3年度の重点的取り組みに関する現況……………	53
ア	医師の確保対策……………	53
イ	看護師の確保対策……………	53
ウ	救急医療・急性期医療体制への取組み……………	53
エ	小児・周産期医療体制への取組み……………	55
オ	地域がん診療連携拠点病院としての機能強化……………	56
カ	地域医療支援病院としての機能強化……………	56
キ	経営健全化対策……………	57
シ	新型コロナウイルス感染症に対する取組み……………	58
<b>10</b>	<b>佐賀県支部の組織・役職員</b> ……………	<b>60</b>
(1)	組織……………	60
(2)	役職員……………	61
<b>○</b>	<b>日本赤十字社佐賀県支部の現勢</b> ……………	<b>66</b>

## はじめに

令和3年度赤十字事業の推進につきましては、赤十字関係者をはじめ多くの県民の皆さまからご支援ご協力を賜りまして、心より厚くお礼申し上げます。

令和3年度は、令和2年度に引き続き、世界中で拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により、感染拡大防止の観点から、各事業の延期や中止、又は形態を変えた縮小開催などの対応を余儀なくされました。

また、佐賀県が実施する「プロジェクトM」への参画（医療資器材調達・保管・発送業務の受託）や、動画・冊子など各媒体による関連情報の普及・啓発等、コロナ禍において日本赤十字社の使命を果たすため、新規事業の実施についても積極的に取り組みました。

以下、各事業の実施概要をご報告いたします。

### 1 国内災害救護体制の強化

令和2年7月豪雨災害や令和3年8月大雨災害など、国内はもとより県内でも頻発・広域・激甚化する災害に備え、「日本赤十字社佐賀県支部防災業務計画」及び「日本赤十字社佐賀県支部防災業務実施要項」にもとづいた支部救護班要員（医師、看護師、主事等）の訓練並びにより専門性を深めた『救護班主事研修会』を、新型コロナウイルス感染症への諸課題に取り組みながら実施しました。

令和3年8月大雨災害において、佐賀県支部は被災者救援のため第1次救護体制を敷き、直ちに佐賀県対策本部へリエゾンを派遣し、日赤災害医療コーディネーターと協議しつつ、県内市町への救護活動を行いました。

さらに、地域や学校などの防災・減災ニーズに応えるため、赤十字の知識、技術、資源を用いての「防災セミナー」を開催（約1,200人受講）し、防災・減災の思想普及に努めました。

### 2 海外における救援活動や開発協力

国際赤十字の一員としての日本赤十字社が行う世界各地で発生している紛争や自然災害の被災者に対する人道的な支援の一環として、令和4年2月24日以降のウクライナ危機支援など緊急アピールに沿った救援金の募集活動を実施しています。

令和3年度の12月に全国展開する「海外たすけあいキャンペーン」では、佐賀県支部は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年度に引続き支部主催の街頭募金は中止としましたが、県内3施設やNHK佐賀放送局の特設窓口には、多くの方から温かいご支援をいただき、日赤が行う海外救援事業の活動資金の確保に努めました。県内では期間中4,114千円（全国約7億2千万円）の救援金が寄せられました。

### 3 赤十字講習事業の普及

救急法や水上安全法、健康生活支援講習並びに幼児安全法など「尊いいのちと健康を守る赤十字講習」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催を延期又は中止し、開催時には、感染防止対策を行ったうえで実施しました。

県内で89回開催し、約3,900人の方々に受講いただきました。事故防止の思想の普及とAEDを使用した一次救命処置が必要な緊急時の対応など、必要な知識と技術の普及に努めました。

### 4 青少年赤十字の活動

青少年赤十字は、「苦しむ人に手を差し伸べたい」という誰もが持っている博愛の心を育むため、幼・保、小、中、高等学校の中に組織されています。

令和3年度は、教育行政や指導者協議会及び賛助奉仕団の協力のもと、活動の普及・啓発強化策により、253校（園）が加盟し、メンバー総数63,852人、加盟率80%を達成しています。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの行事をWebによる開催としました。

### 5 赤十字ボランティアによる活動

赤十字の使命に共感する赤十字ボランティアは、それぞれが保持する能力を活かして、災害救護や社会福祉、生活環境の改善に係る人道的諸事業の支援者、協働者であります。

特に、本県支部管内の12の奉仕団の委員長で組織された「佐賀県赤十字奉仕団委員長連絡会議」の協力を得ながら、活動の充実強化と防災ボランティアの育成に努めました。

### 6 赤十字思想の普及と広報体制の充実

赤十字思想の普及、事業の紹介及び周知を図るため、支部発行の機関紙「赤十字さが」や広報チラシを県内に配布するとともに、マスコミに対して、義援金受付情報等の他、新型コロナウイルス感染症関連の活動等のタイムリーな情報を提供し、随時取材依頼を行いました。

また、県内赤十字3施設合同で運用をしている『3施設合同 Facebook』や『3施設合同 Instagram』では、平時の日赤の活動や、令和3年8月大雨災害への対応について最新の情報を発信するなど、若年層の日赤への関心向上に努めました。

## 7 活動資金募集の推進と財政基盤の強化

赤十字事業を財政的に支えている本県の会員及び寄付者数は、令和4年3月31日現在個人が226,853人、法人が690社で、令和3年度に寄せられた活動資金の実績額は178,777,878円となっております。

人口動態や住環境の変化及び新型コロナウイルス感染拡大に伴う経済不況の影響など厳しい社会情勢を反映して、地区区分扱の活動資金は減少傾向が続くものの、個人大口の寄付増があり、前年度実績を上回る結果(124.8%)となりました。

佐賀県支部では、新型コロナウイルス感染症が流行する中、遺贈や赤十字支援型自販機の設置、ダイレクトメールや直接訪問による法人への働き掛けを強化したほか、地区・分区をはじめとする関係者のご協力を得ながら募集活動を県内全域で展開して、財政基盤の増強に努めています。

## 8 医療事業の充実

唐津赤十字病院では佐賀県の医療計画に基づき、救急医療および急性期医療機能等の体制整備に継続的に取り組みました。

本年度は新型コロナウイルス感染症の感染流行がさらに拡大したため、第二種感染症指定医療機関として、県とも連携を図り、患者の受入れに努めました。前年度に比べ、医業収益は回復傾向にありますが、依然として苦しい状況は継続しています。今後も引き続き感染対策を強化しつつ、通常診療の回復を図り、安定かつ質の高い医療事業を展開できるよう努めます。

## 9 血液事業の推進

佐賀県赤十字血液センターでは、病気やけがで苦しんでいる患者さんに対し安全な血液を安定的に供給するため、県民の皆様に献血へのご理解とご協力をお願いしています。

また、少子高齢化が進展する中、次の「献血の担い手」となる若い世代にも献血の大切さを知っていただくために行政や献血協力団体などと連携しながら、あらゆる機会を捉えて一人でも多く方にご参加いただけるよう努めています。

平成24年の広域事業運営体制を導入して10年の節目を迎えたいま、血液事業を取り巻く環境も大きく変化しており、九州ブロック血液センターを中心として管内地域血液センターとともにブロック全体の事業運営に組織的に参画し、広域的な視点で重要課題に取り組むための体制強化に取り組んでまいります。

# 1 国内災害救護体制の強化

災害救護は、日本赤十字社の第一義的な事業です。大規模災害等の非常災害時における医療救護活動をはじめ、火災等による小災害に対しても被災者支援を実施しています。

佐賀県支部では、平成23年3月の東日本大震災や平成28年4月の熊本地震災害を教訓として、救護業務を迅速かつ効果的に行なうため、災害救護訓練、救護員の養成、救護資器材の整備、救援物資の備蓄等の救護体制強化に努めてきました。

また、令和元年佐賀豪雨災害や令和3年8月11日からの大雨災害の救護活動の経験を踏まえて、救護マニュアルの改訂や各種訓練の質を改善しました。さらに、新型コロナウイルス感染症への諸課題に取り組みながら、救護能力の一層の向上に努めました。

## (1) 災害救護活動

### ア 『令和3年8月11日からの大雨災害』

8月14日（土）、佐賀県に大雨特別警報が発表されたため、佐賀県支部は、被災者救援として13日（金）から第1次救護体制を敷き、直ちに佐賀県災害対策本部へリエゾンを派遣。16日（月）より日赤災害医療コーディネーターと協議しながら、県内各被災地への救護活動を行いました。



大町町内の浸水の様子


主な活動内容としては、避難所アセスメントチーム及び同行者の派遣、在宅被災者の巡回訪問への派遣、災害ボランティアセンター救護所への派遣、赤十字防災ボランティアの活動、救援物資の配付など、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、被災地支援に当たりました。

### (ア) リエゾン（連絡調整員）等の派遣

活動期間	参加人数及び活動内容
8月13日（金）～ 9月22日（水） 合計41日間	派遣人数：佐賀県支部職員4名、日赤災害医療コーディネーター1名計5名（のべ32名）  活動内容：佐賀県災害対策本部及び佐賀県保健医療調整本部会議、佐賀県復旧・復興推進本部会議等への出席。地区区分及び避難所への情報収集、災害時支援協定に基づく支援品の配送調整。  派遣先：佐賀県庁、杵藤保健福祉事務所、武雄市役所役所、大町町役場、武雄市ボランティアセンター、大町町ボランティアセンター、大町町保健センター 他



(イ) 日赤災害医療コーディネーターチーム※の派遣

活動期間	参加人数及び活動内容
8月16日（月） 合計1日間	チーム数：2チーム 派遣人数：日赤災害医療コーディネーター1名、 スタッフ2名 合計3名（のべ4名） 活動内容：避難所アセスメントの派遣調整 派遣先：佐賀県庁、杵藤保健福祉事務所 <div style="text-align: right;">  <p data-bbox="994 801 1430 853">佐賀県災害対策本部会議に出席する 日赤災害医療コーディネーター（医師）</p> </div>


※「日赤災害医療コーディネーターチーム」とは、災害医療コーディネーター（医師）とスタッフ事務職員や看護師、薬剤師等で構成し、支部災对本部に対して医療救護の専門的観点から意見を具申したり、県保健医療調整本部等における関係機関との協議・調整を行ったりする役割を担う。

(ウ) 本社災害医療統括監※との連携


活動期間	参加人数及び活動内容
8月18日（水） 合計1日間	派遣人数：本社災害医療統括監1名、事務管理調整要員1名 合計2名（のべ2名） 活動内容：被災地域の被害状況アセスメント及び佐賀県支部が実施する災害対応に関する助言等の支援 派遣先：嬉野市内の避難所4箇所

※8月15日～19日内閣府調査チームの一員として、被災自治体を実施する災害対応に関する支援を目的に佐賀県に派遣された。


(エ) 避難所アセスメントチーム及び同行者の派遣

活動期間	参加人数及び活動内容
<p>8月16日（月）～ 18日（水） 合計3日間</p>	<p>チーム数：5チーム 派遣人数：佐賀県支部看護師1名、佐賀県支部事務職員2名、唐津赤十字病院看護師4名、唐津赤十字病院事務職員4名、看護奉仕団看護師1名 合計12名（のべ13名） 活動内容：避難所における被災者の健康アセスメント 派遣先：杵藤保健福祉事務所、大町町総合福祉保健センター美郷、大町ひじり学園小学部体育館・武道場、武雄市役所、武雄市文化会館、朝日小学校、朝日公民館、北方公民館、北方中学校、長寿園</p> <div data-bbox="798 862 1193 1153" style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: right;">武雄市の避難所で被災者と会話する唐津赤十字病院の看護師</p>


(オ) 在宅被災者の巡回訪問への派遣

活動期間	参加人数及び活動内容
<p>8月31日（火）～ 9月7日（火） 合計4日間</p>	<p>チーム数：のべ4チーム 派遣人数：佐賀県支部看護師1名、看護奉仕団看護師1名 合計2名（のべ5名） 活動内容：大町町被災地域における在宅被災者への巡回訪問による支援状況や健康状態の確認 派遣先：大町町被災地域（在宅49軒/訪問70軒）</p> <div data-bbox="750 1675 1161 1982" style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: right;">大町町の在宅被災者に健康確認等を行う佐賀県支部の看護師</p>

(カ) 災害ボランティアセンター救護所への派遣

活動期間	参加人数及び活動内容
<p>8月21日（土）～ 9月4日（土） 合計7日間</p>	<p>チーム数：のべ7チーム</p> <p>派遣人数：佐賀県支部看護師1名、佐賀県支部事務職員1名、看護奉仕団看護師3名 合計5名（のべ11名）</p> <p>活動内容：災害ボラセンにおけるボランティアへの応急手当や感染症予防指導等</p> <p>派遣先：武雄市災害ボランティアセンター、大町町災害ボランティアセンター</p>  <p>災害ボランティアセンター（武雄市）で活動する看護奉仕団員</p>

(キ) 赤十字防災ボランティアの活動

活動期間	参加人数及び活動内容
<p>8月15日（日）～ 9月1日（水） 合計10日間</p>	<p>派遣人数：赤十字防災ボランティア9名（のべ21名）</p> <p>活動内容：救援物資等の配布、受け取り、避難所アセスメント、地区分区の情報収集補佐、災害ボランティアセンター救護所対応、在宅被災者の巡回訪問</p> <p>派遣先：杵藤保健福祉事務所、武雄市、嬉野市、神埼市、みやき町、大町町、久留米赤十字会館 他</p>  <p>避難所（武雄市）で健康アセスメントをおこなう看護奉仕団員</p>

(ク) 救援物資の配付

配分期間	品目・数量・配分先
8月16日(月) ～19日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 救援物資 (合計)</li> <li>毛布 230枚</li> <li>安眠セット 206セット</li> <li>緊急セット 35セット</li> <li>タオルケット 50枚</li> <li>バスタオル 50枚</li> <li>・ 配分先</li> <li>武雄市地区、嬉野市地区、 神崎市地区、大町町分区</li> </ul>



大町町の避難所に救援物資を搬入する特殊輸送/水上安全奉仕団員と支部職員

イ 『プロジェクトM』への参画

佐賀県が新型コロナウイルス感染拡大を見据え医療体制を強化するためスタートした「プロジェクトM」に参画しました。県からの委託を受け、医療資器材の安定した調達に努め、県内の感染症指定医療機関や受入協力医療機関等に対し、資器材を定期的に配送しました。

(ア) 配布先 [直接配送] : 県内の14医療機関 (のべ104医療機関)

(イ) 配布医療資器材数一覧 (令和4年3月末現在)

資器材名	配布数
N95マスク	33,480枚
ゴーグル	2,533個
フェイスシールド	23,800枚
アイソレーションガウン	34,700着
キャップ	34,300枚
※スワブ	13,977本
ニトリル手袋	612,600枚
PVC手袋	926,600枚

※スワブ…PCR検査の検体採取用の綿棒

(2) 救護体制の整備

ア 救護班の編成

日本赤十字社は、災害等に医療救護が必要な場合に迅速に救護班の派遣ができるよう「常備救護班」を編成しています。

本県支部関係の常備救護班は、5個班(唐津赤十字病院3個班、佐賀県赤十字血液センター1個班、佐賀県支部1個班)30人で編成しています。

救護班編成基準と要員数

区 分	医 師	看護師長	看護師	主 事	計
1 個 班 の 編 成 基 準	1 名	1 名	2 名	2 名	6 名

イ DMATの編成

「DMAT」とはDisaster Medical Assistance Teamsの頭文字をとった略称で「災害急性期に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チーム（災害派遣医療チーム）」です。



厚生労働省が阪神淡路大震災を教訓に、災害拠点病院内に「日本DMATチーム」を編成し、大地震及び航空機・列車事故といった災害時に被災地に迅速に派遣し超急性期の救急医療を担うことを目的に編成しています。

唐津赤十字病院では、日本DMAT 3チーム（1チーム医師1名、看護師2名、主事1名）を編成し、東日本大震災や熊本地震の際に出動したほか、各種訓練や研修に参加しています。

なお、佐賀県と日赤佐賀県支部（唐津赤十字病院）は平成21年4月1日に「災害派遣医療チーム指定病院」としての協定を締結しています。

ウ 看護師の養成

救護看護師を確保するとともに、唐津赤十字病院における看護師の充足を図るため、日本赤十字九州国際看護大学（福岡県宗像市）で学ぶ学生に奨学金を貸与し看護師の養成を行っています。

なお、奨学金は1人年額60万円で継続して4年間貸与し、県支部と唐津赤十字病院が負担しています。令和2年度における救護看護師の養成は次のとおりです。

看護師奨学生の養成区分（令和4年3月末現在）

学 校 名	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
日本赤十字九州国際看護大学	0名	1名	2名	1名

(3) 災害救護訓練等の実施

ア 赤十字関連訓練及び研修・会議

(ア) 令和3年度日本赤十字社佐賀県支部常備救護班要員研修会【2部制】

例年、佐賀県支部、唐津赤十字病院、佐賀県赤十字血液センターの3施設合同で実施してきた当研修会を本年度、新型コロナウイルス感染拡大防止及び実際の救護活動の内容の違い等により、対象職員を施設ごとに2部に分けて実施



しました。

### 【第1部】

- ・主な内容：応急対応に係る救護班要員としての基礎訓練
- ・対 象：唐津赤十字病院及び佐賀県支部の救護班要員
- ・日 時：6月26日（土）1日
- ・場 所：唐津赤十字病院 佐野講堂他

唐津赤十字病院及び佐賀県支部の救護班要員19名及び訓練スタッフ等14名の総勢33名が参加しました。新型コロナウイルス感染症拡大を受け、予定より2週間遅れとなりましたが、出水期前に実施しました。カリキュラムも要点を絞った内容に変更し、感染防止対策を取りながら開催いたしました。



エアテントの設営訓練をする救護班要員

#### ○訓練内容

- |                       |                 |
|-----------------------|-----------------|
| ①赤十字の災害救護活動           | ②救護体制と救護班       |
| ③救護班の編成と管理運営          | ④日赤の救護活動の実際     |
| ⑤出動命令が出されたら           | ⑥救護活動時に使用する通信手段 |
| ⑦基礎行動                 | ⑧1次トリアージ        |
| ⑨エアテントを使用した救護所設営の手順確認 |                 |
| ⑩救護活動時に使用する各種様式       |                 |
| ⑪こころのケア（班員のストレスケア）    |                 |

### 【第2部】

- ・主な内容：支部災害対策本部運営及び本部支援
- ・対 象：佐賀県赤十字血液センターの救護班要員
- ・日 時：9月29日（水）半日
- ・場 所：日本赤十字社佐賀県支部 2階会議室他  
佐賀県赤十字血液センターの救護班要員6名及び訓練スタッフ11名の総勢17名が参加しました。令和3年8月11日からの大雨災害の対応経験を踏まえて、より実践的なカリキュラムでの研修を実施しました。



支部災害対策本部設営訓練をしている救護班要員

#### ○訓練内容

- ①「赤十字の災害救護活動」について
- ②「基礎行動」について
- ③『支部災害対策本部立ち上げのシミュレーション』（レイアウトと解説)
- ④『避難所アセスメントのシミュレーション』（環境・健康アセスメントと報告まとめ)

### ○運営委員会

- 4月21日 第1回運営委員会（唐津赤十字病院）
- 5月26日 第2回運営委員会（ 〃 ）
- 8月25日 第3回運営委員会（ 〃 ）

### （イ）令和3年度日本赤十字社佐賀県支部救護班主事研修会

日赤救護班要員の主事の業務は、平時の通常業務と異なるにも関わらず複雑で多岐に渡るため、災害時、被災地でスムーズかつ効果的に活動を行うには、事前の研修や訓練が欠かせません。その主事に特化した研修会を令和2年度から開催し、今回、2回目を開催しました。



基礎行動訓練をする救護班主事

佐賀県支部職員1名及び唐津赤十字病院4名、佐賀県赤十字血液センター2名の主事7名並びに訓練スタッフ等11名の総勢18名が参加し、感染防止対策を取りながら実施しました。

- ・主な内容：主事に必要な知識、技術、態度を習得すること
- ・対象：救護班要員の主事職に任命される職員
- ・日時：12月11日（土）半日
- ・場所：唐津赤十字病院 佐野講堂他

### ○訓練内容

- ①救護班要員としての主事とは
- ②日赤の救護活動の実際と変遷
- ③基礎行動
- ④救護活動時に使用する各種様式
- ⑤救護活動時に使用する通信手段
- ⑥避難所支援・病院支援（シミュレーション）
- ⑦医師等から見た主事について

### （ウ）令和3年度九州八県支部合同災害救護訓練

日向灘沖地震により宮崎県が被災した場合を想定して、支部災害対策本部の運営手法や九州各県の赤十字との支援・受援の手順、ICTを活用した情報共有の手法や、「感染症流行下における効果的な合同訓練の手法」について検証しました。佐賀県支部職員3名が参加しました。

- ・日時：11月28日（日）～29日（月）2日
- ・場所：〔メイン会場〕宮崎県支部（宮崎市）  
〔サテライト会場〕福岡県支部（福岡市）

### ○運営委員会

- 7月14日 第4回運営委員会（Web会議）
- 10月14日 打ち合わせ会議（Web会議）

(エ) 令和3年度衛星（携帯）電話による三施設合同非常通信訓練

（3施設、奇数月第2水曜日16時～）

佐賀県支部、唐津赤十字病院、佐賀県赤十字血液センターにおける救護担当者計3名が参加。災害時、固定電話や携帯電話など通常の通信網が使用不能となった場合を想定し、3施設間の緊急連絡系統整備・確立することを目的に実施しました。

(オ) 令和3年度災害看護論研修

（唐津赤十字病院 10月16日（土）1日）

佐賀県支部2名、唐津赤十字病院看護師6名、運営スタッフ3名、研修担当者1名の総勢12名が参加しました。救護活動に必要な知識・技術・態度を身につけ、災害時の看護実践能力を養うことを目的に実施しました。

○研修内容

- ①赤十字の災害救護活動
- ②出動命令が出されたら
- ③基礎行動
- ④救護倉庫と資器材の確認
- ⑤エアテントを使用した救護所設営の手順確認
- ⑥救護活動時に使用する各種様式
- ⑦救護活動時に使用する通信手段
- ⑧災害救護シミュレーション

(カ) 令和3年度唐津赤十字病院こころのケア研修

（唐津赤十字病院 11月5日（金））

唐津赤十字病院看護師7名、主事1名、指導者2名の総勢10名が参加し、救護活動におけるこころのケアについて必要な知識・技術・態度を身につけ、災害時の実践能力を養うことを目的に実施しました。

○研修内容

- ①日本赤十字社のこころのケア
- ②災害時のストレスとストレス反応
- ③被害者へのこころのケア
- ④救護員へのこころのケア
- ⑤こころのケアの実際（グループワーク/ロールプレイ）

(キ) こころのケア指導者養成研修会

（Web 令和4年2月11日～13日）

救護活動の重要な柱の一つである災害時におけるこころのケア活動を実践する救護員の指導者を養成する研修会に唐津赤十字病院1名が参加しました。

(ク) 災害救護の知識と技術の更なる向上を図るため、以下の本社主催の研修会に参加予定でしたが、新型コロナウイルス感染症流行のため中止になりました。



研修名
日赤災害医療コーディネーター研修会
原子力災害対応基礎研修会
全国赤十字救護班研修会

#### イ 自治体関係

##### (ア) 航空機事故総合訓練（佐賀空港、10月17日：半日）

新型コロナウイルス感染症拡大を受け、「トリアージ地区・救護所等設置訓練」は中止となりましたが、「通報訓練」は実施され佐賀県支部1名が参加しました。

##### (イ) 佐賀県原子力防災訓練（令和4年2月26日（土））

佐賀県支部1名が「情報伝達訓練」に参加しました。唐津赤十字病院参加の「被ばく傷病者等受入訓練」は新型コロナウイルス感染症流行のため中止になりました。

##### (ウ) 佐賀市総合防災訓練（令和4年2月20日（日））新型コロナウイルス感染症流行のため中止になりました。

##### (エ) 第57回佐賀県防災会議（書面開催）

佐賀県地域防災計画の修正の審議及び県の防災の取り組み報告等を確認しました。

##### (オ) 佐賀県災害医療従事者研修会

新型コロナウイルス感染症流行のため中止になりました。

#### (4) 防災教育事業指導者の育成と赤十字防災セミナーの開催

##### ア 防災教育事業指導者の養成

##### (ア) 防災教育事業指導者養成研修（Web 令和3年9月28日～29日）

全国で実施される「日本赤十字社防災教育事業」の普及・拡大に伴い、事業（セミナー）の指導・運営を行う指導者を養成する研修に、支部職員1名、看護・幼児安全法奉仕団員1名の計2名が参加しました。

##### 佐賀県支部防災教育事業指導者（令和4年3月末現在）

所属	人数
支部職員	2名
奉仕団員	8名

##### 佐賀県支部防災教育事業主任指導者（令和4年3月末現在）

所属	人数
支部職員	1名

## イ 防災講習会（赤十字防災セミナー）の開催

令和元年佐賀豪雨災害を始め、大雨や台風、地震など自然災害が頻発する中、地域住民の防災に対する意識がこれまで以上に高まっています。そのニーズに応えるため、地域防災組織や学校などへ出向き、赤十字が保持している知識や技術をもとに、自助・共助の考えや応急手当、災害食作りなどをカリキュラムとした「赤十字防災セミナー」を開催し、新型コロナウイルス感染防止対策を取りながら、自分のいのちは自分で守る「自助」の考えや事前に備えることの重要性を訴えました。



防災セミナーの開催状況

実施回数	参加者数	セミナーの内容
19回	1,266人	<ul style="list-style-type: none"> <li>○防災講話 … 災害への備え、自助共助の役割、避難のルール、避難所での生活、非常持ち出し品の準備</li> <li>○応急手当 … ストッキング・毛布・新聞紙等を応用した手当（デモンストレーションのみ）</li> <li>○災害食作り … ハイゼックス（炊飯袋）を使った炊き出し訓練（飲食は伴わず）</li> </ul>

## （５）赤十字防災ボランティアとの連携

ア 令和3年度防災ボランティア緊急連絡訓練及び「日赤さが防災ボランティアセンター」立ち上げ・運営訓練（佐賀県支部奉仕団室 12月19日（日）半日）

災害時、防災ボランティアが迅速かつ効果的に救護活動を実施するため、支部からの支援要請を緊急連絡網で伝達・回答し、支部に参集後は、防災ボランティアセンターの立ち上げと、防災ボランティアリーダーを中心に運営できることを目的に実施し、佐賀県支部3名、赤十字防災ボランティア16名の総勢19名が参加しました。

この訓練は、事前の企画から当日の運営、講評までを防災ボランティアリーダーや支部指導講師などボランティアの方々が主体的に取り組み、実現しました。

### ○訓練内容

第1部 防災ボランティア緊急連絡訓練

第2部 「日赤さが防災ボランティアセンター」立ち上げ・運営訓練

- ①レイアウト
- ②避難所へ救援物資の積み込み・輸送
- ③他県救護班の道案内
- ④義援金の受付
- ⑤記録（クロノロジー）

## (6) 救護資機材の整備

資機材及び救援物資の保有備蓄状況

令和3年度末における救護活動に必要な資機材の保有状況及び救援物資の備蓄状況は次のとおりです。

### ア 救護資機（器）材の保有状況

品名	数量	品名	数量
救急車	2台(1)	発電機	5基(1)
災害救援車	8台(3)	投光器	6台
災害連絡車	2台	防雨ヘッドランプ	40個(4)
医療セット	2組(2)	防護用ゴーグル	40個(10)
担架	20台(5)	防護用ヘルメット	35個(4)
簡易ベッド	26台(6)	折り畳み式机	6台
災害救護用パソコン	1台	無線基地局(150MHZ)	3局
災害救護用通信機器(Wifi)	1機	車載無線機( )	28台
パイプテント	27張	携帯無線機( )	14台
ドラッシュテント	1セット	無線基地局(400MHZ)	1局
エアーテント大	2セット(1)	車載無線機( )	7台
エアーテント小	2セット(1)	携帯無線機( )	15台
イーザーアップ・テント	22張	車載衛星電話	2機
NBC災害除染セット	1セット	可搬型衛星電話	1機(1)
デジタル個人線量計	42個	折り畳み舟艇	1隻
空間線量率測定用サーベイメータ	1台	折り畳みリヤカー	2台
防護服セット	42セット	非常用炊き出し釜	22台
災害用トイレ	12据	DMA T資器材	1セット(1)
自動体外式除細動機(AED)	2台	浄水器	1台

※ ( ) カッコ内は唐津赤十字病院及び地区分区の備蓄数(内数)

### イ 救援物資の備蓄状況(地区分区備蓄分含む)

品目	年度当初	整備	配付	年度末備蓄
毛布 (枚)	1,843	5	270	1,578
タオルケットセット (組)	274	0	20	254
バスタオル (枚)	513	500	99	914
緊急セット (個)	645	0	29	616
安眠セット (組)	388	240	206	422
ブルーシート (枚)	106	0	0	106
非常食 (食)	1,026	0	448	578

## (7) 災害見舞金・見舞品の贈呈

令和3年度は、床上浸水及び火災等により罹災された101世帯に対し、次のとおり救援品及び見舞金・弔慰金を贈呈しました。



毛布・安眠セット



緊急セット

ア 令和3年度に提供した見舞金等

(『令和3年8月11日からの大雨災害』救援物資の配付分を除く)

市郡名	世帯数	毛布	バス タオル	緊急 セット	見舞金等 (円)
佐賀市	59	124	124	60	90,000
唐津市	10	18	19	9	50,000
鳥栖市	9	18	18	10	0
多久市	2	6	6	2	20,000
伊万里市	0	0	0	0	0
武雄市	3	2	3	2	20,000
鹿島市	4	7	7	4	40,000
小城市	1	2	2	1	10,000
嬉野市	1	2	2	1	10,000
神埼市	3	9	9	4	30,000
吉野ヶ里町	3	9	9	4	30,000
基山町	0	0	0	0	0
みやき町	2	1	2	2	20,000
上峰町	0	0	0	0	0
玄海町	0	0	0	0	0
有田町	1	9	9	2	10,000
大町町	1	0	0	0	10,000
江北町	0	0	0	0	0
白石町	2	6	6	2	20,000
太良町	0	0	0	0	0
計	101	213	216	103	360,000

## (8) 国内義援金

令和3年度に国内で発生した地震・豪雨・台風などによる災害被災者に対し、県民の皆様から次のとおり義援金が寄託されたので、日赤本社並びに被災県の日赤支部（被災県の配分委員会）を通じて被災者に届けられました。

内 訳	件 数	金 額 (円)
平成30年7月豪雨災害義援金	13	16,358
令和2年7月豪雨災害義援金	113	677,805
令和3年2月福島県沖地震災害義援金	12	57,354
令和3年島根県松江市大規模火災義援金	2	5,806
令和3年7月大雨災害義援金	18	378,835
令和3年台風第9号等大雨災害義援金	2	1,009
令和3年8月大雨災害義援金	273	239,362,911
令和3年長野県茅野市土石流災害義援金	2	4,100
令和4年3月福島県沖地震災害義援金	2	20,000
合 計	437	240,524,178

## (9) 臨時救護

公共性が高く多人数が参加するスポーツ大会やイベント等へ救護班(員)を派遣していますが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で多くのイベントが中止になりました。

令和2年度に続き1日だけの縮小開催となった郡市対抗県内一周駅伝大会に、救護班を派遣しました。

### 救護班(員)派遣状況

派遣回数	派遣延日数	派遣人数(医師・看護師・主事・赤十字奉仕団)	応急手当をした人
1回	1日	4名	0名

## 2 海外における救援活動や開発協力

現在世界では、相次ぐ紛争や頻発する自然災害、急速に進む人口増加や深刻な貧困により、1億人以上もの人々が命をつなぐための支援を必要としています。

さらに、度重なる紛争や暴力により避難を余儀なくされる人々の数も第二次世界大戦以降最悪の水準に達しています。

日本赤十字社は、世界192の国や地域の赤十字社・赤新月社の有力な一員として強固なネットワークのもと、こうした紛争や災害の犠牲者に対する緊急救援や復興支援をはじめ、開発途上国における貧困や保健衛生の改善、減災対策など、中長期的な開発支援活動に取り組み、人道的任務の達成に努めています。

- |                  |   |
|------------------|---|
| ○独立国             | 195カ国（日本政府承認）                           |
| ○国連加盟国           | 193カ国                                   |
| ○国際赤十字・赤新月社連盟加盟国 | 192カ国<br>（赤十字157カ国、赤新月社34カ国、ダビデの赤盾社1カ国） |



避難民の診療にあたる日本赤十字社医師  
（バングラデシュ南部避難民救援）



サイクロンの被災地で医療活動を行う  
日本赤十字社医師（モザンビーク）

### （1）本社の活動

日本赤十字社は、紛争や災害の被災者、難民等を救援するために国際赤十字や国内の赤十字組織と連携しながら、医療救護要員や開発支援要員を養成・派遣するとともに、物資や資金の提供など緊急支援や中長期的な支援活動を迅速かつ計画的に実施しています。

これらの事業に要する資金は、国民の皆様から日赤本社及び各都道府県支部に寄せられる尊い社資・寄附金（災害救援金）・NHK海外たすけあい募金や国際救援金とその財源となっています。



患者の処置について地元看護師に  
アドバイスする日赤看護師  
(バングラデシュ) ©IFRC



検査機器を使った診療の仕方を指導  
する日本赤十字社医師（レバノン）

#### ア 最近の日本赤十字社による主な緊急救援・復興支援実施事業

事業名	実施年	実施内容
インドネシア・スラウェシ島地震救援	2018～21	保健医療アドバイザー派遣、支援物資の配付、救援活動資金拠出
バングラデシュ南部避難民救援	2017～	医療チーム派遣、支援物資の配付、救援活動資金拠出
ネパール地震救援・復興支援	2015～21	医療チーム派遣、支援物資の配付、救援活動資金拠出
西アフリカエボラ出血熱救援	2014～21	医療要員の派遣、救援活動資金拠出
フィリピン中部台風救援・復興支援	2013～21	医療チーム派遣、支援物資の配付、救援活動資金拠出
中東（シリア他）人道危機救援	2011～	救援活動資金拠出、医療要員等の派遣

#### イ 最近の日本赤十字社による主な長期的人道支援の取り組み

事業名	実施年	実施内容
ルワンダ気候変動等レジリエンス強化事業	2019～24	経済的に特に貧しい郡において、気候変動の影響と考えられる災害や感染症、貧困などの社会課題に対して、水と衛生、環境緑化、生計支援などを通して地域の人々のレジリエンス能力を強化する。
アフガニスタン気候変動対策事業	2020～25	気候変動による影響の大きい地域において、防災・減災に関する知識を普及し、また、農業指導など生計手段の獲得を支援することで人々の災害対応能力とレジリエンスを強化する。
インドネシア・コミュニティ防災事業	2020～23	ジャワ島中部における災害リスクの高い地域住民と学校を対象とし、活動基



インドネシア・コミュニティ 防災事業	2020～23	盤の設置と担い手の育成、地域のボランティア活動とそれを支えるインドネシア赤十字社の能力向上を図り、地域の人々のレジリエンスを強化する。
ネパール・コミュニティ 防災強化事業	2021～23	特に災害リスクが高く災害対策が急務の課題となっている地域において、ネパール赤十字社の災害即応体制整備や防災・減災に関する知識を普及し、地域の人々のレジリエンスを強化する。
国際赤十字・赤新月社連盟を通じた 支援	毎年実施	連盟への支援を通じてアジア大洋州・アフリカにおいて、赤十字・赤新月社の組織強化（活動の担い手であるボランティア育成等）や防災、保健衛生改善等の支援ニーズの高い中長期的な活動に貢献する。



バランスの取れた食事についてアドバイスする赤十字ボランティア

©Atsushi Shibuya/JRCS（ルワンダ）



赤十字社が実施する学校での防災訓練の様子（インドネシア）

## （２）佐賀県支部の活動

### ア 国際救援活動

令和３年度に県民から寄せられた国際救援金は、日赤本社に送金し、被災国の緊急支援事業及び復興支援事業に役立てられました。

※支部直接扱い分

内 訳	件 数	金 額 (円)
中東人道危機救援金	3	9,000
バングラデシュ南部避難民救援金	7	231,719
トンガ大洋州噴火津波救援金	7	13,422
ウクライナ人道危機救援金	290	20,190,399
「NHK海外たすけあい」寄附金	236	829,755
アフガニスタン人道危機救援金	1	2,000
無指定海外救援金	0	0
計	544	21,276,295





地下鉄の駅に避難している人々に食料や必要物資を配付する赤十字ボランティア (C) Maksym Trebukhov Ukrainian Red Cross

#### イ 「海外たすけあい」運動

日本赤十字社はNHKとの共催により、「第39回海外たすけあい」キャンペーンを、12月1日から12月25日まで実施しました。佐賀県支部では新型コロナウイルス感染症流行のため、前年度に引き続き佐賀県支部主催の街頭募金は中止となりましたが、県内3施設やNHK佐賀放送局の特設窓口には、多くの方から温かいご支援をいただきました。

令和3年度の「海外たすけあい」では、本県で、4,114,420円、全国では約7億2千万円の寄附金が寄託され、世界各地の紛争や自然災害などで苦しむ人々のために活用されています。



(NHK佐賀放送局入口と県内赤十字施設に設置した募金箱)

#### ウ 安否調査

日本赤十字社では、災害発生時や有事の際に在住・滞在する外国人の安否調査を赤十字国際委員会（ICRC）や各国の赤十字社と連携・協力して行い、そこで見つかった家族の再会（離散家族の再会）ができるようにしています。

このほかに、紛争などで連絡手段を絶たれた人々や抑留された人々がICRCを通じて離れた家族と交わす手紙（赤十字通信）を、日本国内に住む宛先人まで届けるなどの活動を行っています。

### 3 赤十字の講習事業の普及

「苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命に基づき、県内各地で人命を救う方法や健康で安全に暮らすための知識や技術を伝える講習会を実施しました。

新型コロナウイルス感染症から受講者や指導員、職員の安全を確保するために、感染状況に応じて講習会の開催を延期又は中止しました。開催時は安全対策として、「会場の変更」「分割による開催」「事前学習導入による講習時間の短縮」などの措置を講じ、さらに、手指消毒薬と資機材消毒用品を配備しました。実技は、人工呼吸や接触する実技を避けるなどの制限を設け、専用のチェックリストや健康チェック表を活用し、関係者全員の健康状態の確認とマスク着用を徹底しました。また、講習資機材の貸し出しや「動画で見る一次救命処置」をはじめ動画教材を案内するなど、普及方法を工夫しながら、関係者すべての健康と安全を守ることに努めました。



AEDの講習については、ショックボタンを有さない自動体外式除細動器（オートショック AED）の製造販売が開始されることを踏まえ、従来のショックボタンを有する AED との相違点、使用上の注意点及び情報提供等を行うなど、最新情報を講習内容に取り入れました。

#### (1) 救急法

最新の国際的ガイドラインや指針に基づき日常生活における事故防止や手当ての基本、胸骨圧迫やAEDの使い方、災害時の心得についてなどの知識と技術を習得できる講習会開催をしました。（受講者数 2,743人）



救急法講習実施状況

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
救急法基礎講習	17回	444人	444人	444人
救急員養成講習	5回	130人	130人	130人
短期講習	54回	2,169人		

## (2) 水上安全法

水の事故から尊い人命を守るために必要な泳ぎの基本と自己保全、事故防止、溺れた人の救助、応急手当の方法、着衣泳など、自分自身の安全を保ちながら、安心して水と楽しく関わるための知識と技術を普及しました。(受講者数 624人)



水上安全法講習実施状況

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
指導員Ⅱ養成講習	1回	長崎県支部主催講習にアドバイザー講師としてWeb参加		
救助員Ⅰ養成講習	0回	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止		
短期講習	17回	624人		

## (3) 健康生活支援講習

健やかな高齢期を過ごすために役立つ知識や、家庭や地域での高齢者支援に役立つ知識・技術の習得と実践を通して、健康維持・増進の思想と互いに助け合う心を育む講習は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止しました。

(受講者数 0人)

健康生活支援講習実施状況

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
支援員養成講習	0回	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止		
短期講習	0回	0人		

## (4) 幼児安全法

子どもの尊い生命を守り、社会全体で子どもを大切に育てるために、事故予防とケガや病気の手当の方法、救命手当などの知識や技術の普及を目的に、保護者や保育園・幼稚園の職員、地域の子育て支援サポーターを対象に実施しました。(受講者数 498人)



幼児安全法講習実施状況

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
支援員養成講習	0回	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止		
短期講習	25回	498人		

### (5) 講習資機材の貸し出し

- ・心肺蘇生用人形及びAEDトレーナー 5回

### (6) 指導員研修会

赤十字の各種講習は、講師が指導する指導員養成講習の検定に合格し、指導員資格を取得した多くのボランティアの活動により開催されています。指導員は、赤十字の協力者として、人のいのちと健康を守る方法を広く普及するための知識や技術を有しているだけでなく、講習を通じて赤十字そのものも普及推進します。毎年、赤十字講習の知識・技術・指導法の維持向上を目的とする指導員研修会を開催していますが、令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。

指導員在籍状況

講習種別	ボランティア	支部	病院	血液センター	計
救急法指導員	55	5	3	4	67
水上安全法指導員Ⅱ	24	2	0	3	29
健康生活支援講習指導員	2	1	3	2	8
幼児安全法指導員	16	1	1	1	19

### (7) 講師研修会

講習の普及推進と講習指導及び指導員育成等に必要な知識や技術の向上を図り、新型コロナウイルス感染症流行時における講習普及事業の対応等について理解する目的で開催されました。

講師在籍状況

講習種別	講師(人)
救急法	1
水上安全法	1
健康生活支援講習	2
幼児安全法	2

講師研修会参加状況

研修会名・会議名	開催形式	回数
救急法講師研修会	Web	1回
水上安全法講師研究会	Web	1回
水上安全法講師研修会	本社参集	1回
健康生活支援講習講師研修会	Web	1回
幼児安全法講師研究会	Web	6回
幼児安全法講師研修会	Web	1回



## 4 青少年赤十字（JRC）の活動

青少年赤十字活動は、幼稚園・保育園、小・中・高等学校・特別支援学校の児童生徒が、学校教育や日常生活の中で赤十字精神を身につけ、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう実践と体験を基にした学習を学校や地域において実践しています。



出前講座「コロナ禍での差別や偏見をなくそう」

### 《態度目標》

「気づき・考え・実行する」

### 《3つの実践目標》

- ・生命と健康を大切にする（健康・安全）
- ・人間として社会のため、人のためにつくす責任を自覚し、実行する（奉仕）
- ・広く世界の青少年を知り、仲良く助けあう精神を養う（国際理解・親善）

青少年赤十字活動は、県・市町の教育委員会、青少年赤十字加盟校で構成する青少年赤十字指導者協議会、青少年赤十字賛助奉仕団、青年赤十字奉仕団との一体的取り組みにより行われています。



小学校トレセン：フィールドワーク



支部見学：思齊館小学部

### （1）青少年赤十字加盟校の構成

ア 登録状況

（令和4年3月31日現在）

校 種	加 盟 校 数	メ ン バ ー 数	指 導 者 数
幼稚園・保育園	10	1,143	190
小 学 校	121	25,600	1,296
中 学 校	79	23,035	1,342
義務教育学校	6	2,178	145
高 等 学 校	33	11,333	407
特別支援学校	4	563	253
合 計	253校(園)	63,852	3,633

## イ 青少年赤十字加盟校一覧

(令和4年3月31日現在)

市 郡 名	幼・保・小学校	中学校	高等学校・特別支援学校	計
佐 賀 市	博愛の里こども園、 ちえんかん保育園、 本庄幼稚園、 鍋島幼稚園、 嘉瀬保育園、 新栄、思斉 中川副、大詫間、 南川副、西川副 東与賀、久保泉 佐大附属、富士 若楠、諸富北 北山東部、本庄 巨勢、日新、金立 諸富南、三瀬、 高木瀬、西与賀 嘉瀬、松梅、勸興 赤松、鍋島	佐大附属、城南、昭栄 城東、金泉、諸富、富士 三瀬、大和、川副、城北 東与賀、佐賀清和、鍋島 松梅、思斉、弘学館、 龍谷	佐賀東、佐賀工業 龍谷、北陵、佐賀北 佐賀女子、佐賀学園 佐賀商業、高志館 致遠館、佐賀西、 清和、弘学館、盲学校 佐賀大和特支	15 64
唐 津 市	大良、平原、成和 湊、鏡山、打上 馬渡、呼子、田野 外町、長松、久里 切木、大志、簗木 鬼塚、佐志、玉島 竹木場、北波多 浜崎、西唐津、 東唐津、相知、 納所、入野、小川 七山、すみれ幼	第一、鏡、鬼塚、 佐志、相知、肥前、七山、 西唐津、馬渡、小川 高峰、海青、第五、巖木 浜玉、湊、唐津東	唐津東、唐津南、 唐津西、巖木 唐津工、唐津特支分校	6 52
鳥 栖 市	虹の子、レインボ ー、あいりす 基里、田代、若葉 弥生が丘、麓 鳥栖北、旭、鳥栖	基里、田代、鳥栖西、 鳥栖、香楠	鳥栖、鳥栖商	2 18
多 久 市	ひしのみこども園	西溪校、中央校、東部校 (義務教育学校)	多久	1 5
伊 万 里 市	黒川、滝野 松浦、波多津、 立花、山代東、 牧島、山代西、 二里、伊万里、 大川内、大川	青嶺、山代、国見、 啓成、東陵、滝野、 伊万里、 南波多郷学館(義務教育 学校)	敬徳	1 21
武 雄 市	北方、西川登、 朝日、若木、 山内東	山内、武雄、北方、 武雄青陵	武雄	1 10
鹿 島 市	鹿島、七浦、浜、 能古見、明倫、 北鹿島	東部、西部	鹿島	1 9
小 城 市	芦刈、岩松、桜岡 晴田、砥川、牛津 三日月、三里	小城、牛津、芦刈、 三日月	牛津	1 13

市 郡 名	幼・保・小学校	中学校	高等学校・特別支援学校	計
嬉 野 市	吉田、大野原 大草野 5 轟、久間	吉田、大野原、嬉野 塩田 4	嬉野 1	10
神 埼 市	神埼、脊振、 西郷、仁比山 千代田西部、 千代田中部 千代田東部 7	神埼、千代田、脊振 3	神埼、神埼清明 2	12
三 養 基 郡	北茂安、三根西 三根東、中原、 上峰、若基、基山 7	三根、上峰、北茂安、 中原、基山 5	三養基、中原特別支援 2	14
神 埼 郡	三田川、東脊振 2	三田川、東脊振 2	0	4
東松浦郡		玄海みらい学園 (義務教育学校) 1	唐津青翔 1	2
西松浦郡	有田中部 1	有田、西有田 2	0	3
杵 島 郡	六角、白石、有明 東、江北 4	白石、福富、江北、有明 大町ひじり学園 (義務教育学校) 5	白石、佐賀農業、 2	11
藤 津 郡	大浦、多良 2	大浦、多良 2	太良 1	5
計	幼・保 10 小学校 121	義務教育学校 6 中学校 79	特別支援 4 高校 33	253

※ 小・中・高校の J R C 加盟校は、全体の約80%で全国平均の約34%を大きく上回っています。

#### ウ 青少年赤十字加盟登録式

青少年赤十字メンバーとしての意識を高めるための加盟登録式は、新型コロナウイルス感染防止対策を十分行ったうえで、こども園1園、小学校1校、中学校6校、高校1校の9件の依頼に対応し講師派遣を行いました。

## (2) 活動状況

### ア 指導者対象

(ア) 青少年赤十字トレセン指導者養成講習会 (本社) Web開催

開 催 日 6月5日 (土)

場 所 日赤佐賀県支部

参 加 者 石井 彩 (神崎市立千代田中部小学校教諭)

他 支部職員2名

(イ) 全国青少年赤十字研究会 (本社) Web開催

開 催 日 9月30日 (木)

場 所 各職場  
参 加 者 江上 緑 指導主事（佐賀県教育庁学校教育課）  
鈴里 洋之 指導主事（西部教育事務所）

(ウ) 青少年赤十字指導者中央講習会（本社）

※未開催（隔年開催のため）

(エ) 九州ブロック青少年赤十字指導者養成講習会（沖縄県主催）Web開催

開 催 日 8月18日（水）

場 所 日赤佐賀県支部

参 加 者 中島 彩（佐賀女子高等学校教諭）

他 支部職員1名

(オ) 全国指導者協議会総会（本社）Web開催

開 催 日 6月29日（火）

場 所 日赤佐賀県支部

参 加 者 吉木 知也（佐賀女子高等学校長：指導者協議会副会長）

他 支部職員1名

(カ) 6ブロック指導者協議会長・支部担当者合同会議（沖縄県）Web開催

開 催 日 11月18日（木）

場 所 日赤佐賀県支部

参 加 者 会長欠席 支部職2名

(キ) 佐賀県指導者協議会役員会（第1回）

開 催 日 5月7日（金）

場 所 メートプラザ佐賀

参 加 者 数 28名

(ク) 佐賀県指導者協議会総会

開 催 日 5月7日（金）

場 所 メートプラザ佐賀

参 加 者 数 100名

(ケ) 佐賀県指導者協議会役員会（第2回）Web開催

開 催 日 2月24日（木）

場 所 佐賀県支部から配信

参 加 者 数 24名



(コ) 佐賀県青少年赤十字指導者育成研修会

開催日 6月18日(金)・19日(土) 日帰り2日間  
場所 ホテル龍登園  
参加者数 4名  
指導スタッフ数 36名

(サ) 佐賀県青少年赤十字指導者協議会 第4回理事研究会

開催日 6月18日(金)  
場所 ホテル龍登園  
参加者数 19名

(シ) 佐賀県青少年赤十字加盟校長等研修会

開催日 10月28日(木)  
場所 メートプラザ佐賀  
参加者数 174名



研修Ⅰ「学校教育と青少年赤十字について」



研修Ⅱ「働き方改革を見据えた青少年赤十字のあり方」



研修Ⅲ「パネルディスカッション～トレセンの今後について～」

イ メンバー対象

(ア) 青少年赤十字スタディー・プログラム(本社) Web開催

開催日 12月25日(土)・26日(日)

場所 日赤佐賀県支部

参加者 小田芭菜(佐賀女子高等学校2年)  
内村洸誠(神崎市立脊振中学校2年)  
内村隆太(神崎市立脊振中学校2年)  
川部隼空(神崎市立脊振中学校2年)  
坂井翔太(神崎市立脊振中学校2年)  
坂井優太(神崎市立脊振中学校2年)  
徳川修也(神崎市立脊振中学校2年)

本社スタッフ 松尾一志(県立神埼高等学校教諭)

(イ) 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンターの実施

※新型コロナ感染防止のため、日帰り開催及び募集人数の制限にて対応

<小学校の部>

開催日 8月3日(火)  
場所 北山少年自然の家  
参加者数 38名

<中学校の部>

開催日 8月4日(水)  
場所 北山少年自然の家  
参加者数 39名

<高等学校の部>

開催日 7月24日(土)・8月2日(月)  
場所 日赤佐賀県支部・北山少年自然の家  
参加者数 9名

※7月24日は午後から支部にてトレセンの事前学習

(ウ) 博愛フェスタでの博愛発表会

開催日 12月12日(日)  
場所 佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館  
発表校 西川副小学校、千代田中部小学校  
附属中学校、佐賀女子高等学校

(エ) 国内交流(千葉県JRCと中川副小学校との交流会)

※新型コロナ感染拡大により中止

※作成した資料交換

(オ) 優良メンバー、グループ表彰

青少年赤十字活動が特に顕著であった学校に対し、各学校長の推薦により、今年度は下記メンバー及びグループを表彰しました。

<優良メンバー表彰> 5名

氏名	学校名	氏名	学校名
瀬戸口妃華梨	県立牛津高等学校	田中 柚乃	県立牛津高等学校
宮田 優	神崎市立脊振中学校	合田 淑乃	神崎市立脊振中学校
田島 愛舞	県立致遠館高等学校		

< 優良グループ表彰 > 6 団体

グループ名	グループ名
神崎市立脊振中学校生徒会	神崎市立千代田中学校卒業生一同
上峰小学校ボランティア委員会	佐賀女子高等学校
佐賀市立三瀬中学校令和3年度生徒会	佐賀市立松梅中学校卒業生一同

(カ) JRC 高校メンバー協議会活動 (月定例会の活動)

高校メンバー協議会は、月1回佐賀県支部等において定例会を開催し、「健康・安全」、「奉仕」、「国際理解・親善」などの活動を実施していますが、令和3年度は全てWeb開催で実施しました。



5月：「歓迎会の様子」



5月：「JRCの紹介」



9月：「文通プロジェクト」



3月：「3年生を送る会」

ウ その他の活動

(ア) 青少年赤十字継続加盟校に対する感謝状の贈呈 (10年・5年)

10月28日にメートプラザ佐賀で開催しました青少年赤十字加盟校長等研修会において、青少年赤十字継続加盟校に対する感謝状の贈呈を行いました。

- ① 10年以上継続校 (園) 17校 ② 5年～9年継続校 (園) 3校

(イ) 青少年赤十字賛助奉仕団による加盟校に対する「イトスギ」贈呈

青少年赤十字加盟校長等研修会時において、加盟校に対し賛助奉仕団が育苗した糸杉の贈呈を行いました。

「糸杉」は赤十字・青少年赤十字のシンボルツリーであり、県内で加盟歴の長い学校から順に、平成



24年度より贈呈を行っています。

○「糸杉」贈呈校

- ①唐津市立玉島小学校      ②嬉野市立轟小学校      ③佐賀市立本庄小学校
- ④伊万里市立黒川小学校    ⑤佐賀市立日新小学校
- ⑥唐津市立佐志中学校      ⑦唐津市立小川中学校      ⑧佐賀市立思齊館中学部
- ⑨弘学館高等学校          ⑩県立盲学校

(ウ) 青少年赤十字防災教育講話

- ① 防災セミナー「避難所生活と避難所運営」新聞紙スリッパ作成体験  
(唐津市立鏡中学校)
- ② 防災講話&災害時シミュレーション体験(武雄市立山内東小学校)
- ③ 防災セミナー「災害からいのちを守る」(佐賀市立金泉中学校)
- ④ 防災講話&災害時シミュレーション体験(神崎市立千代田中部小学校)
- ⑤ 社会科の導入としてのリモート防災講話(武雄市立朝日小学校)
- ⑥ 日赤探検隊での防災講話(佐賀市立思齊館小学部)
- ⑦ きけんはっけん教材活用の防災学習(神崎市立千代田中部小学校)
- ⑧ 竹ひごタワー体験(神崎市立千代田中部小学校)
- ⑨ 防災講話「自分のいのちは自分で守る」(県立盲学校)
- ⑩ リモートによる防災講話「災害からいのちを守る」(鳥栖市立鳥栖西中学校)
- ⑪ 防災講話「災害からいのちを守る」(武雄市立西川登小学校)
- ⑫ 地震避難訓練の講話(鳥栖市立弥生が丘小学校)

(エ) 青少年赤十字講話

- ① J R C 講話(神崎市千代田中部小学校)
- ② トレセン紹介講話(神崎市千代田中部小学校)
- ③ 日赤探検隊での J R C 講話(神崎市千代田中部小学校)

(オ) 出前事業「コロナ禍での差別や偏見をなくそう！」

(みやき町立北茂安中学校) (鳥栖市立鳥栖西中学校)  
(佐賀市立大詫間小学校) (東松地区県立・私立保健委員会)  
(佐賀市立小中一貫校北山校) (神崎市立千代田中学校)

・コロナ禍での差別の現状やコロナ禍がもたらす「心の変化」や「対応方法」を理解し、思いやりと支え合いの社会づくりに向けて、よりよい行動を実行する児童・生徒を育成する目的で30分程度の講話を実施しました。

(カ) 県教育センター講座「学校防災講座」参加者48名・支部より指導者派遣

(キ) 学校安全総合支援事業

佐賀県教育委員会が文部科学省の委託を受けて、自然災害や交通事故に対しての安全教育を推進する取り組みに、推進委員および学校安全アドバイザーとして関わりました。

会 場	実施日	内容
大町ひじり学園	7月 7日 (水)	実践委員会への参加
牛津中学校	7月 8日 (木)	実践委員会への参加
牛津中学校	10月 1日 (金)	防災講話
大町ひじり学園	11月 9日 (火)	避難訓練時の防災講話
大町ひじり学園	12月 16日 (木)	実践委員会への参加
牛津中学校	12月 17日 (金)	実践委員会への参加

(ク) 青少年赤十字加盟校等で行われた義援金・救援金募集（支部扱い分）

(令和4年3月末現在)

内 訳	件 数	金 額 (円)
令和2年7月豪雨災害義援金	2	19,071
令和3年7月大雨災害義援金	3	6,624
令和3年8月大雨災害義援金	12	169,616
「NHK海外たすけあい」寄付金	3	16,779
合 計	20	212,090

## 5 赤十字ボランティアによる活動

赤十字奉仕団は、人道博愛の赤十字精神に賛同し、赤十字の使命とする人道的な諸活動を実践しようとする人々が集まって結成された奉仕者の組織です。

佐賀県支部では、地域赤十字奉仕団のほか青年赤十字奉仕団と特殊赤十字奉仕団が組織され、様々な活動を展開しています。また、奉仕団同士が、より主体的・積極的に活動できるよう連携強化のため「佐賀県赤十字奉仕団支部委員会」を設置しています。

### (1) 地域赤十字奉仕団

本県の地域赤十字奉仕団は、市地区・町分区において地域婦人会を中心に結成されており、災害が発生した場合には地域において機動的に救援活動等を行う重要な奉仕団です。

ア 結成状況

(令和4年3月31日現在)

団名	団数	団員数	委員長
佐賀県地域赤十字奉仕団	26 団	3,107 名	山口 七重

イ 一品供出金運動

災害等に遭われた被災者に救援の手を差し延べ生活再建を支援するため、救援資金として毎年団員一人当たり 20 円が拠出されています。

また、12 月に実施される NHK 海外たすけあいにおいても一品供出金から寄附金を送っています。

NHK 海外たすけあい寄附金・・・・・・・・・・30,000 円



NHK 佐賀放送局で行われたオープニングセレモニー

(地域赤十字奉仕団の山口委員長による NHK 海外たすけあい寄附金の贈呈)

### (2) 青年赤十字奉仕団

若い力と行動力を社会に役立てようと学生等で結成された組織で、「防災/減災啓発」、「HIV/AIDS 感染予防啓発」、「JRC 活動支援」、「献血推進」、「その他奉仕活動」など、様々な活動を展開しています。



ア 結成状況

(令和4年3月31日現在)

団名	団員数	委員長
佐賀県青年赤十字奉仕団	24名	中島 克昌



エアテント設置練習



団内研修 (ボランティア基礎研修)

**(3) 特殊赤十字奉仕団**

特殊赤十字奉仕団は、様々な専門技術を持つ人や、特定の奉仕活動を行おうと集まった人々によって組織されており、それぞれの特徴を生かした活動を実践しています。本県には9つの特殊奉仕団と、日赤本社が直轄する赤十字飛行隊佐賀県支隊があります。

ア 結成状況

(令和4年3月31日現在)

団名	団員数	委員長
佐賀県赤十字救急法奉仕団	33名	瀬戸 弘美
佐賀県赤十字水上安全奉仕団	23名	佐藤 洋
佐賀県赤十字幼児安全法奉仕団	13名	牛草 達雄
佐賀県青少年赤十字賛助奉仕団	61名	夏秋 正倫
佐賀県赤十字看護奉仕団	26名	門田 直子
佐賀県赤十字無線奉仕団	23名	江口 信彦
佐賀県赤十字特殊輸送奉仕団	18名	一ノ瀬 安信
佐賀県赤十字奉仕団「しゃちの会」	4名	矢ヶ部 登志子
佐賀県赤十字奉仕団「ほっと」	23名	下村 京子
(本社直轄) 赤十字飛行隊佐賀支隊	5名	田中 正照

#### (4) 活動状況

##### ア ボランティアの育成

##### (ア) 支部または奉仕団主催研修会への参加

##### ① 赤十字ボランティア基礎研修会

期 日	実施主体	会 場	参 加 者
7 月 11 日	青年赤十字奉仕団	日本赤十字社佐賀県支部	9名

##### ②佐賀県赤十字奉仕団研修交流会（支部主催）

奉仕団間の協働や相互支援により各奉仕団の枠を超えた多角的な奉仕活動を展開し、奉仕活動の充実を図ることを目的に平成 26 年度より研修交流会を開催しています。また、平成 29 年度より各奉仕団から実行委員を選出し、支部指導講師と実行委員による研修交流会の企画・運営を行っていましたが、令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催を延期といたしました。

##### ③ 佐賀県赤十字奉仕団研修交流会実行委員会

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

##### ④赤十字防災ボランティア研修会

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

##### ⑤支部指導講師打ち合わせ

期 日	内 容	会 場	参 加 者
6 月 8 日	研修交流会検討等	日本赤十字社佐賀県支部	5名
11 月 6 日	令和 3 年度防災ボランティアセンターの立ち上げ・運営訓練に関する事前打合せ	日本赤十字社佐賀県支部	5名

##### (イ) 赤十字ボランティア・リーダー研修会

期 日	会 場	参加者
10 月 28 日 ～29 日	日本赤十字社佐賀県支部 (Web 開催)	山口 七重 (地域赤十字奉仕団) 結城 健 (佐賀県支部職員)
10 月 30 日 ～31 日	日本赤十字社佐賀県支部 (Web 開催)	上野 聖哉 (青年奉仕団) 結城 健 (佐賀県支部職員)
10 月 28 日 ～31 日	日本赤十字社佐賀県支部 (Web 開催)	松崎 かめ代 ※講師として参加 (救急法奉仕団 / 幼児安全法奉仕団)

イ ボランティア関係行事

(ア) 支部または奉仕団主催行事

① 佐賀県支部

日付	活動	参加奉仕団	回数
12月1日 ～25日	海外たすけあい募金活動 (NHK 窓口受付業務)	青年、救急法、看護、 しゃちの会	20回
随時	各種赤十字講習普及・指導	救急法、水上安全、 幼児安全	116回
随時	防災セミナーの普及・指導	青年、救急法、 水上安全、幼児安全法、 特殊輸送	4回※
随時	臨時救護 (トレセン除く)	看護	0回
随時	支部内作業	しゃちの会	月1回

※ 支部職員が実施した回数を除いています。



NHK 佐賀放送局特設窓口



水上安全講習 (千代田西部小)

② 地域赤十字奉仕団

日付	主催者	会場	活動内容	受講者
12月4日	佐賀県地域婦人連 絡協議会 (大内地区)	佐野常民と三重津海 軍所跡の歴史館	館内見学	23名
1月7日	佐賀県地域婦人連 絡協議会	佐賀県婦人会館	佐野常民歴史館館長 による講演	9名
3月16日	佐賀県地域婦人連 絡協議会	佐賀県婦人会館	ワークショップ 「タオル de 防災ず きん」	12名
3月23日	佐賀県地域婦人連 絡協議会	佐賀県婦人会館	ワークショップ 「タオル de 防災ず きん」	12名
3月27日	佐賀県地域婦人連 絡協議会 (武雄市地区)	佐野常民と三重津海 軍所跡の歴史館	館内見学	11名

③ 青年赤十字奉仕団

日付	主催者	会 場	活動内容	受講者
11月20日	青年奉仕団	日本赤十字社 佐賀県支部	勉強会	延期

④ 特殊奉仕団

日付	主催者	会 場	活動内容	受講者
随時	ほっと	県内6施設	介護施設等におけるケア	-
随時	特殊輸送	日本赤十字社 佐賀県支部	車両整備、タイヤ交換	

⑤ 佐賀県赤十字奉仕団支部委員会

日付	会 場	内 容	参加者
8月28日	日本赤十字社佐賀県支部	発災時通報連絡訓練	110名
7月19日 12月19日	日本赤十字社佐賀県支部	役員会	6名 4名
3月19日	メートプラザ佐賀	総会	延期

(イ) ブロック主催行事

① 第6ブロック青年赤十字奉仕団協議会

日付	会 場	参 加 者
2月19日	Web開催	中島 克昌 (委員長) 佐藤 央昂 (副委員長)
2月20日	Web開催	中島 克昌 (委員長) 佐藤 央昂 (副委員長)

② 第6ブロック奉仕団委員長並びに支部担当課長会議

期 日	会 場	参 加 者
1月11日	日本赤十字社佐賀県支部 (Web参加)	瀬戸 弘美 (佐賀県赤十字救急法奉仕団 委員長)

(ウ) 本社主催行事等

① 赤十字奉仕団中央委員会

期 日	会 場	参 加 者
5月28日	日本赤十字社佐賀県支部 (Web参加)	瀬戸 弘美 (佐賀県赤十字救急法奉仕団 委員長)

ウ その他

(ア) 佐賀県支部赤十字奉仕団指導講師 委嘱

指導講師名	所属奉仕団	委嘱年度
牛草 達雄	救急法奉仕団 / 幼児安全法奉仕団	H26 年度
鈴木 容子	看護奉仕団 / 幼児安全法奉仕団	H29 年度
松崎 かめ代	救急法奉仕団 / 幼児安全法奉仕団	H29 年度
夏秋 正倫	青少年赤十字賛助奉仕団	H30 年度
秋山 芳美	青少年赤十字賛助奉仕団	R 元年度

(5) 奉仕者功労表彰

ア 日本赤十字社表彰

平成 24 年度九州八県赤十字大会を当県支部が開催したことを契機に、毎年度永年赤十字活動に尽力され、功績のあった奉仕者を表彰しています。



表彰状授与（水上安全奉仕団）

奉仕団名	金色 有功章 (20年以上)	銀色 有功章 (15年以上)	支部長 感謝状 (10年以上)	支部長 感謝状 (5年以上)	計
佐賀県地域赤十字奉仕団	6	0	0	0	6
佐賀県青年赤十字奉仕団	0	0	0	4	4
佐賀県赤十字救急法奉仕団	0	6	0	0	6
佐賀県赤十字水上安全奉仕団	0	0	5	4	9
佐賀県赤十字幼児安全法奉仕団	0	0	0	0	0
佐賀県青少年赤十字賛助奉仕団	0	0	0	0	0
佐賀県赤十字看護奉仕団	2	0	2	0	4
佐賀県赤十字無線奉仕団	0	0	0	0	0
佐賀県赤十字特殊輸送奉仕団	0	0	0	0	0
佐賀県赤十字奉仕団「しゃちの会」	1	0	0	0	1
佐賀県赤十字奉仕団「ほっと」	0	0	0	1	1
(本社直轄) 赤十字飛行隊佐賀支隊	0	0	0	0	0
計	9	6	7	9	31

イ 県政功労者 佐賀県知事表彰

(ア) 種別 福祉・保健衛生功労

(イ) 受章者 一ノ瀬 安信 (佐賀県赤十字特殊輸送奉仕団 委員長)



佐賀県赤十字特殊輸送奉仕団  
一ノ瀬委員長の県知事表彰



## 6 赤十字思想の普及と広報体制の充実

### (1) 令和3年全国赤十字大会

5月20日、日本赤十字社本社（東京都港区）において、令和3年全国赤十字大会が、日本赤十字社名誉総裁皇后陛下、名誉副総裁各宮妃殿下のご臨席のもとに、開催されました。開催にあたっては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、開催規模を例年の約1,600名から約60名に縮小して行われました。（佐賀県からの参会者なし）

### (2) 令和3年度九州八県赤十字大会

11月11日、九州八県支部が持ち回りで開催している九州八県赤十字大会が、日本赤十字社名誉副総裁寛仁親王妃殿下をお迎えし、大分県立総合文化センター「iichikoグランシアタ」において開催されました。受章(彰)者141名を含む赤十字関係者等約750名が参加しました。第2部のアトラクションとして、日本文理大学チアリーディング部によるパフォーマンスが披露されました。

佐賀県関係受章(彰)者は、金色有功章個人5人、同法人3社、銀色有功章個人4人、同法人1社、日本赤十字社感謝状個人2人、同法人5社であり、これを含む佐賀県参会者は、特別社員(会員)、地区分区関係、ボランティアなど計46名でした。

ア 受章(彰)者御芳名（敬称略、順不同）

(ア) 日本赤十字社感謝状（金色有功章後の社資功労）

#### 【個人】

一ノ瀬 安信	(吉野ヶ里町)	稗田 重徳	(小城市)
神近 文江	(嬉野市)	船津 恵子	(神埼市)
福山 つや子	(佐賀市)	井口 克代	(福岡県福岡市)

#### 【法人】

松尾建設株式会社	(佐賀市)	株式会社九電工佐賀支店	(佐賀市)
佐賀富士ベンディング株式会社	(佐賀市)	株式会社佐賀銀行	(佐賀市)
株式会社南佐賀自動車学校	(佐賀市)	東島電気工事株式会社	(唐津市)
株式会社平野酸素商会	(唐津市)	久光製薬株式会社	(鳥栖市)
味の素株式会社九州工場	(佐賀市)	将栄建設株式会社	(唐津市)
株式会社神近建設	(嬉野市)	医療法人やましたクリニック	(鳥栖市)
佐賀商工ビル管理組合	(佐賀市)		

(イ) 金色有功章（社資功労・役職功労）

#### 【個人・社資功労】

田中 俊文	(東京都杉並区)	神近 利久	(嬉野市)
坂田 艶子	(佐賀市)	大木 傑	(佐賀市)
小柳 清久	(鳥栖市)	嬉野 政則	(佐賀市)
井上 敏明	(鳥栖市)	松本 義孝	(鳥栖市)
石丸 普輝子	(佐賀市)		

#### 【個人・役職功労】

武廣 勇平	(上峰町)	池田 敦子	(佐賀市)
-------	-------	-------	-------

吉原 綾子 (唐津市)

【法人】

松尾工業株式会社	(佐賀市)	佐銀リース株式会社	(佐賀市)
株式会社新富商事	(唐津市)	株式会社兼茂	(鹿島市)
株式会社神埼薬局	(神埼市)	佐賀製菓株式会社	(基山町)
佐賀ソリューション株式会社	(佐賀市)	久綿株式会社	(鳥栖市)
嬉野町建設業協同組合	(嬉野市)		

(ウ) 銀色有功章 (社資功労・役職功労)

【個人・社資功労】

岩渕 次男	(大町町)	平井 英子	(上峰町)
前田 セツ子	(伊万里市)	徳島 利明	(吉野ヶ里町)
若林 興三	(佐賀市)	千住 光章	(佐賀市)
松尾 孝司	(武雄市)	井上 幸久	(唐津市)
権藤 カズエ	(鳥栖市)		

【個人・役職功労】

小松 政	(武雄市)	水川 一哉	(大町町)
山中 幸光	(唐津市)	上田 利治	(玄海町)
川崎 敏光	(白石町)	小西 百恵	(唐津市)
一ノ瀬 いずみ	(武雄市)	田中 大輔	(吉野ヶ里町)
大串 壽春	(江北町)	武富 尚子	(江北町)

【法人】

株式会社サガシキ	(佐賀市)	税理士法人M. T. A	(唐津市)
唐津中央ロータリークラブ	(唐津市)	盛永建設株式会社	(鹿島市)
株式会社川原建設	(佐賀市)	医療法人きたむら歯科	(武雄市)
肥前陶土工業協同組合	(嬉野市)	川浪医院	(有田町)
佐賀ターミナルビル株式会社	(佐賀市)	有限会社嬉野建設工業	(嬉野市)

(3) 赤十字運動イベント

赤十字月間のイベントとして、一年間を通じて佐賀県内で赤十字運動イベント「防災セミナー」を実施する予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑み実施はありませんでした。

日時	会場	地区 分区	参加者
新型コロナウイルス のために中止		佐賀市	
		唐津市	
		鳥栖市	
		多久市	
		伊万里市	
		武雄市	
		鹿島市	
		小城市	
		嬉野市	
		神埼市	
		吉野ヶ里町	
		基山町	
		みやき町	
		上峰町	
		玄海町	
		有田町	
		大町町	
江北町			
白石町			
太良町			
	合計	0	

#### (4) 博愛フェスタ2021

12月5日から12月12日の期間、佐野常民記念館において、博愛精神の普及と啓発を目的とした佐賀市、佐賀市教育委員会、日赤佐賀県支部、佐野常民顕彰会の共催による「博愛フェスタ2021」が開催されました。

このフェスタの中心事業として行なわれた「全国博愛絵画展」には、全国のJRC加盟校等119の小・中学校や絵画教室から応募のあった2,032点の中から各賞が授与され、博愛大賞には坂本星空さん（佐賀県みやき町立北茂安小学校1年生）の『みんなともだち』が選ばれました。入賞者の作品は期間中、記念館に展示されました。

#### (5) 佐野祭

佐野常民初代社長の119回忌にあたる12月7日の命日に、川副町早津江の佐野常民生誕地において、佐野祭（例年祭）が執り行われました。

この慰霊祭には、赤十字有功会や佐野常民顕彰会並びに赤十字施設幹部職員など赤十字関係者と地元有志など約50人が参拝しました。

今年も、地元の佐賀市立中川副小学校の児童も特別に参加し、青少年赤十字誓いの唱和と、佐野先生を讃える歌を合唱しました。



佐野祭の様子

## (6) 防災・減災プロジェクト「ACTION!防災・減災」

日本赤十字社では毎年3月に、過去の災害の教訓を忘れることなく、将来起きる災害に対する防災・減災意識の向上を目指し、「私たちは忘れない」キャンペーンを実施してきました。

今年度については、東日本大震災から11年目を迎え、これまでの災害から得た教訓を「わすれない」から一歩進んで、一人でも多くの方に防災・減災に関する「アクション」を起こしていただくことを目指し、プロジェクト名を新たに「ACTION!防災・減災」として実施致しました。

主な内容として、本社作成ポスターを活用した広報活動や、公式SNSでの連載企画の他、ラジオへの出演により防災・減災への意識向上を広く県民に対し呼びかけを行いました。

また、県内企業1社からは、この活動にご賛同いただき、災害救護等の活動費を含む日赤の活動資金へのご寄付をいただきました。

## (7) その他の広報活動

赤十字思想の普及、事業の紹介及び周知を図るため、次の広報活動を実施しました。

ア 支部発行の機関紙「赤十字さが」84号（春号）を21,000部、85号（秋号）を21,000部作成し、地区・分区を通じ県内全世帯に回覧するとともに、有功章社員はじめ赤十字関係者に配布しました。また、本社が毎月発行している「赤十字NEWS（新聞）」2,000部を赤十字関係者などに配布しました。

支部の事業活動を広く県民に知ってもらうため、広報チラシ345,000枚を作成し、5月の赤十字運動月間中に県下ほぼ全世帯に配布しました。

イ 小、中、高等学校の児童・生徒に赤十字についての理解を深めてもらうため、「赤十字白い羽根シール」を作成し、5月の赤十字運動月間前に配布しました。

ウ 新聞、テレビ、ラジオなどの報道機関に対しては、義援金受付情報等の他、新型コロナウイルス感染症関連の活動（日赤作成動画「コロナの次にやってくるもの」や「プロジェクトM」への参画について）の情報を送付し、随時取材依頼を行いました。

エ 地区区分並びに青少年赤十字加盟校における行事等の際に、支部に常備している事業紹介用パネルを積極的に貸出し、活用してもらいました。

オ 佐賀県支部、唐津赤十字病院、佐賀県赤十字血液センターの県内赤十字3施設合同で運用を行っている『3施設合同Facebook』では、平時の日赤の活動や、令和3年8月豪雨災害への対応について最新の情報を発信しました。

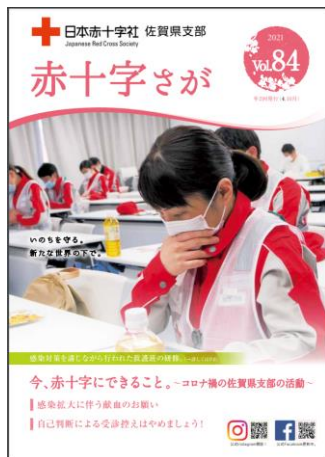
また令和元年度に開設した『3施設合同Instagram』では、特に若年層をターゲットに絞り、「NHK海外たすけあい」や「ACTION!防災・減災」時にFacebookと連動した企画を行う等、若年層の日赤への関心向上に努めました。

(ア) Facebook

- ① フォロワー数 1,497人 (令和4年5月9日現在)
- ② 投稿に対するいいね数 2,114件
- ③ 年間投稿数 67本

(イ) Instagram

- ① フォロワー数 348人 (令和4年4月27日現在)
- ② 投稿に対するいいね数 373件
- ③ 年間投稿数 14本



『赤十字さが』



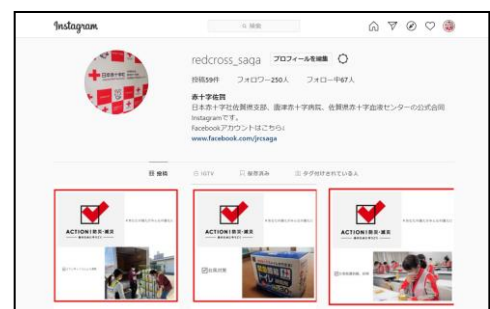
赤十字NEWS (新聞)



5月運動月間広報チラシ



3施設合同Facebook



3施設合同Instagram

### カ 3施設合同広報委員会

佐賀県支部、唐津赤十字病院、佐賀県赤十字血液センターの若手の職員で構成する広報委員会を隔月開催しました。

委員会設立から9年目となった令和3年度は、新型コロナウイルスの感染拡大によりイベントの多くが中止となる中で、リモート開催を取り入れる等、感染症対策を行いながら、SNSを活用し、赤十字事業の普及を積極的に行いました。

また、佐野常民生誕200周年への関心を高めることを目的に、「佐野常民生誕200周年ロゴマーク」と「佐野常民等身大パネル」を実施しました。



3施設合同広報委員会メンバー

佐野常民生誕200周年ロゴマーク

佐野常民等身大パネル

### キ 赤十字運動月間にかかる広報

5月の赤十字運動月間イベントとして、佐賀県庁において「懸垂幕の掲示」「パネル展示」「広報ビデオの上映」を実施し、赤十字の活動を県民の皆様にも周知する機会となりました。



懸垂幕の掲示（佐賀県庁）



パネル展示（佐賀県庁）



## 7 活動資金募集の推進と財政基盤の強化

### (1) 会員数

一定の会費を納めていただいた会員数は、次のとおりです。 (各年度末現在)

区 分	令和2年度			令和3年度			増減(計)	
	個人	法人	計	個人	法人	計	個人	法人
会 員 <sup>※1</sup>	1,181	636	1,817	1,430	680	2,110	249	44
協力会員 <sup>※2</sup>	226,956	15	226,971	225,423	10	225,433	△1,533	△5
合 計	228,137	651	228,788	226,853	690	227,543	△1,284	39

※1 年額2,000円以上の会費を当該年度または前年度にお寄せいただいた個人・法人

※2 目安として年額500円以上2,000円未満の会費を当該年度にお寄せいただいた個人・法人

### (2) 有功章社員数及び特別社員数

これまでに有功章及び特別社員章を受章(彰)された方は、次のとおりです。

なお、有功章受章(彰)者(個人・法人)は、(1)※1にかかわらず、現「会員」資格を有します。 (令和4年3月31日現在)

区 分	個人	法人	計	令和3年度新規受章(彰)者	
				個人	法人
金色有功章社員 <sup>※3</sup>	267	279	546	16	22
銀色有功章社員 <sup>※4</sup>	368	498	866	9	10
特 別 社 員 <sup>※5</sup>	3,924	1,396	5,320	50	31

※3 総額50万円以上の会費または寄付金をお寄せいただいた個人・法人及び役職功労者

※4 総額20万円以上50万円未満の会費または寄付金をお寄せいただいた個人・法人及び役職功労者

※5 これまでに総額2万円以上20万円未満の会費または寄付金をお寄せいただいた個人・法人

### (3) 赤十字会員増強運動

日本赤十字社はその活動理念である人道的使命を達成するために、国の内外において積極的に活動を展開し、毎年着実にその成果をあげていますが、赤十字の多岐にわたる事業活動は、会員をはじめ、県民が拠出する「活動資金」によって支えられています。会員組織の拡充強化は赤十字事業の普及と発展をもたらす最大の原動力であるので、日本赤十字社の事業について一層の理解と協力を図る必要があります。

このため、赤十字会員募集は年間を通じて行っていますが、特に、5月を「赤十字会員増強運動月間」として、地区・分区並びに地域の奉仕者をはじめ自治会や町内会など関係各位の協力を得て、会員の確保、活動資金の増強に努めました。

ア 地区・分区事務長会議

令和3年7月6日（火）、日赤県支部において第1回目の地区・分区事務長会議の開催し、令和2年度の事業報告及び一般会計歳入歳出決算について説明するとともに、九州八県赤十字大会等について説明を行いました。

また、令和4年3月2日（水）、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、初めてWebで第2回目の事務長会議を開催し、令和3年度の間業務報告、令和4年度事業計画、令和4年度一般会計歳入歳出予算等について説明するとともに、赤十字運動イベント「防災セミナー」への協力を要請しました。



**(4) 令和3年度活動資金募集実績**

ア 総括表

(令和4年3月31日現在) 単位：円

区 分	令和2年度(A)	令和3年度(B)	B/A %
<b>一 般 社 資</b>	<b>122,106,931</b>	<b>160,940,152</b>	<b>131.8</b>
支部扱	20,413,184	60,126,476	294.5
一 般	19,893,184	59,972,476	301.5
使 途 指 定	520,000	130,000	25.0
地区分区扱	101,693,747	100,813,676	99.1
<b>法 人 社 資</b>	<b>21,183,717</b>	<b>17,837,726</b>	<b>84.2</b>
支部扱	19,566,717	16,540,238	84.5
一 般	17,166,717	16,440,238	84.1
使 途 指 定	2,400,000	100,000	4.2
地区分区扱	1,617,000	1,297,488	80.2
<b>合 計</b>	<b>143,290,648</b>	<b>178,777,878</b>	<b>124.8</b>
※使途指定を除く	140,370,648	178,547,878	127.2

※ 使途指定とは、唐津赤十字病院並びに佐賀県赤十字血液センターに対する医療機器等整備のための特定寄付金。

イ 支部、地区区分別実績一覧表

	市 町 名	対象世帯 ①	令和3年度目標額 (①×600円)	実 績 額(円)				前年度実績 (円)	
				一般 ②	法人 ③	計 ②+③	前年度 比(%)	金額	
支 部 扱	個 人		9,769,000	60,126,476		60,126,476	294.5	20,413,184	
	法 人		12,762,000		16,540,238	16,540,238	84.5	19,566,717	
	計 A		22,531,000	60,126,476	16,540,238	76,666,714	191.8	39,979,901	
地 区 分 扱	佐 賀 市	65,524	39,314,400	19,677,352		19,677,352	98.9	19,889,023	
	唐 津 市	31,551	18,930,600	12,215,024	13,000	12,228,024	92.5	13,226,019	
	鳥 栖 市	21,231	12,738,600	6,446,000		6,446,000	97.7	6,597,000	
	多 久 市	5,343	3,205,800	3,266,806		3,266,806	99.9	3,268,918	
	伊 万 里 市	14,608	8,764,800	5,303,650		5,303,650	101.1	5,247,705	
	武 雄 市	13,467	8,080,200	8,607,105		8,607,105	100.2	8,593,760	
	鹿 島 市	8,110	4,866,000	4,446,000		4,446,000	101.6	4,374,400	
	小 城 市	12,484	7,490,400	7,243,409		7,243,409	100.6	7,199,057	
	嬉 野 市	6,931	4,158,600	3,585,500	700,000	4,285,500	93.6	4,578,000	
	神 埼 市	8,893	5,335,800	5,727,200		5,727,200	104.6	5,475,800	
	市地区計 a	188,142	112,885,200	76,518,046	713,000	77,231,046	98.4	78,449,682	
	吉野ヶ里町	4,606	2,763,600	2,606,400		2,606,400	99.7	2,613,200	
	基 山 町	5,220	3,132,000	2,785,400	200,000	2,985,400	103.5	2,883,700	
	み や き 町	7,130	4,278,000	4,930,000		4,930,000	100.2	4,921,600	
	上 峰 町	2,679	1,607,400	1,780,300		1,780,300	99.9	1,782,800	
	中部管内計	19,635	11,781,000	12,102,100	200,000	12,302,100	100.8	12,201,300	
	玄 海 町	1,420	852,000	824,400	10,000	834,400	88.8	939,800	
	北部管内計	1,420	852,000	824,400	10,000	834,400	88.8	939,800	
	有 田 町	5,545	3,327,000	2,679,400	367,000	3,046,400	96.2	3,165,920	
	大 町 町	1,872	1,123,200	1,304,400	7,488	1,311,888	100.3	1,308,600	
	江 北 町	2,591	1,554,600	1,958,200		1,958,200	105.5	1,855,800	
	白 石 町	6,248	3,748,800	4,050,200		4,050,200	100.4	4,036,000	
	太 良 町	2,384	1,430,400	1,376,930		1,376,930	101.7	1,353,645	
	西部管内計	18,640	11,184,000	11,369,130	374,488	11,743,618	100.2	11,719,965	
	町 計 b	39,695	23,817,000	24,295,630	584,488	24,880,118	100.1	24,861,065	
	a + b =B	227,837	136,702,200	100,813,676	1,297,488	102,111,164	98.8	103,310,747	
総 計 A + B	227,837	159,233,200	160,940,152	17,837,726	178,777,878	124.8	143,290,648		

## 8 支部評議員会の開催

- (1) **令和3年度支部評議員会文書審議** 令和3年4月1日上程  
第1号議案 日赤佐賀県支部支部長（指山 弘養 氏）の選出について  
第2号議案 日赤佐賀県支部副支部長（甲斐 直美 氏）の選出について  
第3号議案 日赤佐賀県支部監査委員（山田 恭輔 氏）の選出について
- (2) **令和3年度支部評議員会文書審議** 令和3年5月25日上程  
第1号議案 令和2年度事業報告について  
第2号議案 令和2年度一般会計歳入歳出決算について  
第3号議案 令和2年度医療施設特別会計歳入歳出決算について
- (3) **令和3年度支部評議員会文書審議** 令和3年6月9日上程  
第1号議案 日赤佐賀県支部支部長（山口 祥義 氏）の選出について
- (4) **令和3年度支部評議員会文書審議** 令和3年7月29日上程  
第1号議案 日赤佐賀県支部副支部長（南里 隆 氏）の選出について
- (5) **令和3年度支部評議員会文書審議** 令和4年2月2日上程  
第1号議案 令和4年度事業計画について  
第2号議案 令和4年度一般会計歳入歳出予算について  
第3号議案 令和4年度医療施設特別会計歳入歳出予算概算書について  
第4号議案 日赤佐賀県支部代議員の選出について  
そ の 他 令和4年度佐賀県赤十字血液センターの事業計画について

## 9 医療事業の充実（唐津赤十字病院）

### （1）令和3年度の重点的取組みに関する現況

#### ア 医師の確保対策

地域間、診療科間における医師の偏在等を背景とした医師不足はいまだ解決されておらず、当院においても少なからず影響を受けていますが、派遣大学に対して行ってきた長期ビジョンに立った医師確保対策が功を奏し、安定感のある診療部を構成できつつあります。ただし、救急科、産婦人科、小児科については十分な医師数が確保できておらず、不安定な状況が続いています。

また、臨床研修指定病院として基幹型臨床研修医および協力型臨床研修医の確保に努めました。

直近5年間の医師数の推移 （4月1日時点）

職 種	H29	H30	R 元	R 2	R 3
医 師	7 2	7 7	7 6	7 4	7 6
歯科医師	0	1	1	1	1
小 計	7 2	7 8	7 7	7 5	7 7
研 修 医 (括弧内は基幹型)	7 (7)	5 (3)	3 (3)	8 (8)	1 0 (7)
総 計	7 9	8 3	8 0	8 3	8 7

#### イ 看護師・助産師の確保対策

看護師の確保対策として例年同様に日赤佐賀県支部の奨学金制度の活用や、県内外の看護学校に対する採用試験への応募依頼、さらに民間主催の看護師合同説明会への参加等の施策を実施した結果、22名の看護師を新規採用することができました。しかし、令和4年度に向けた採用活動においては看護師確保に苦慮しており、採用活動の見直しを進めました。

また、新人看護師の職場適応を促進するために行っている新人ローテーション研修等に取り組み、早期離職者の抑制に努めました。

直近5年間の看護師・助産師数の推移 （4月1日時点）

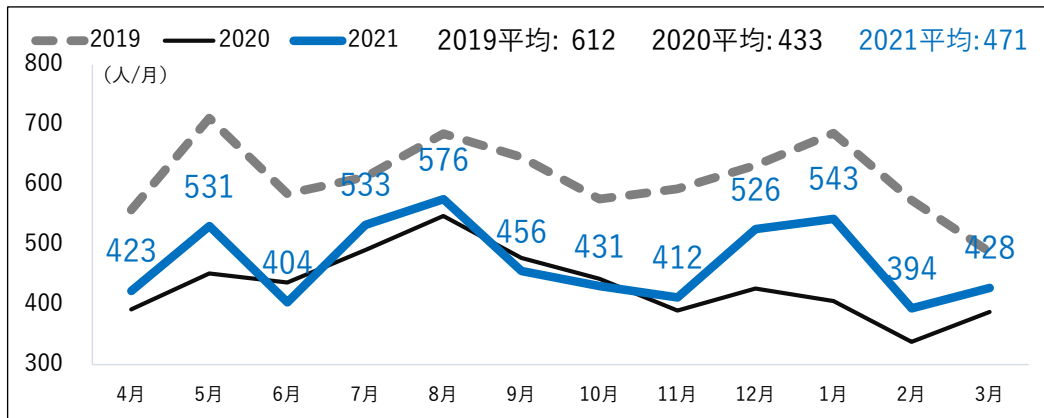
職 種	H 2 9	H 3 0	R 元	R 2	R 3
看 護 師	3 2 6	3 2 7	3 2 1	3 1 8	3 2 0
助 産 師	1 2	1 4	1 5	1 4	1 3
計	3 3 8	3 4 1	3 3 6	3 3 2	3 3 3

#### ウ 救急医療・急性期医療体制への取組み

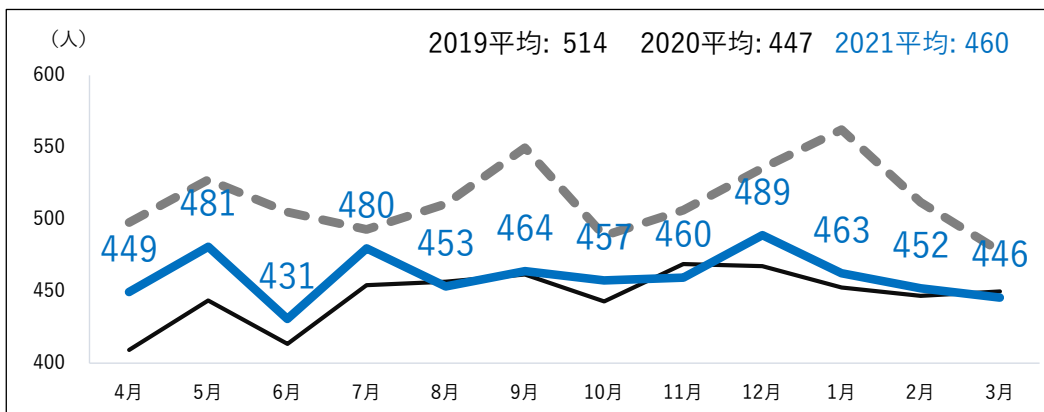
令和3年度の常勤救急医は1名体制であり、引き続き救急医療・急性期医療の体制整備を図るとともに、北部医療圏全体の救急医療体制や地域救命救急センターの役割を踏まえ、病床の有効利用に努めました。

令和元年度は経常損益約3億円の黒字と安定的な経営状況でしたが、令和2年度に続き令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、救急外来患者数や入院患者数等の十分な回復は得られず、安定的な病院運営のため補助金申請を行いました。

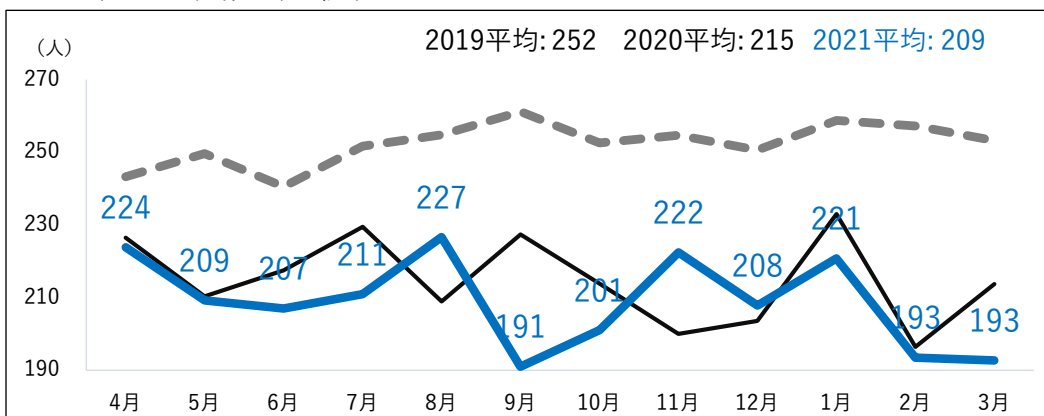
救急外来患者数 ※小児救急センター受診者数を除く



1日平均患者数（外来）

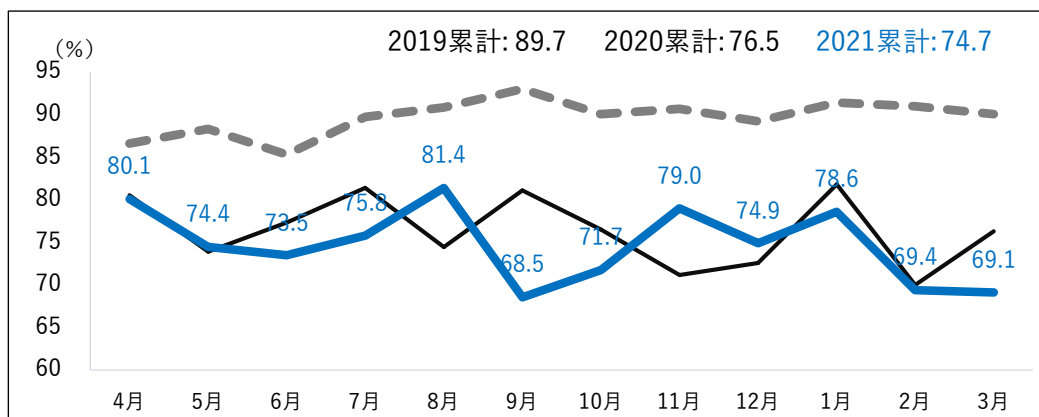


1日平均患者数（入院）





## 病床稼働率

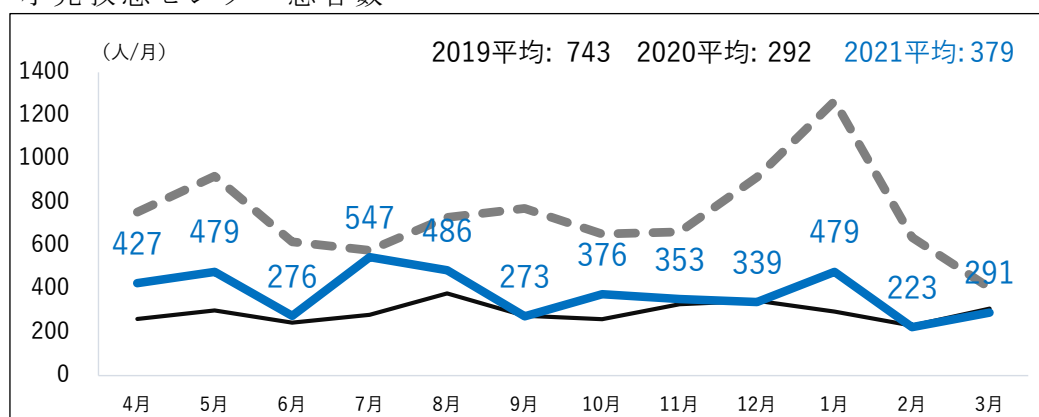


## エ 小児・周産期医療体制への取組み

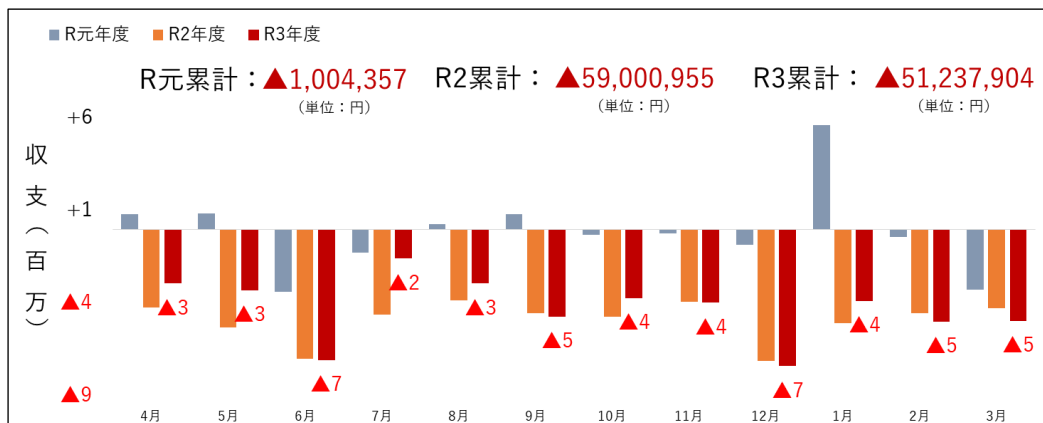
地域連携小児救急センターでは、5つの大学病院からの医師派遣と唐津東松浦医師会および離島診療所の連携協力医による一次救急医療の提供と当院が担当する二次救急医療との連携が形づくられていますが、新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、この2年間の小児救急センター受診者数や収支状況は大幅に悪化しました。

産婦人科医師については、引き続き3名体制を維持していますが、ハイリスク分娩のみならず正常分娩を地域で安心して行えるような周産期医療を確立するためには、産婦人科医師の増員は不可欠であり、医師確保に向けて唐津市、医師会と協力しながら継続的に大学等関係機関に積極的な働きかけを行っています。

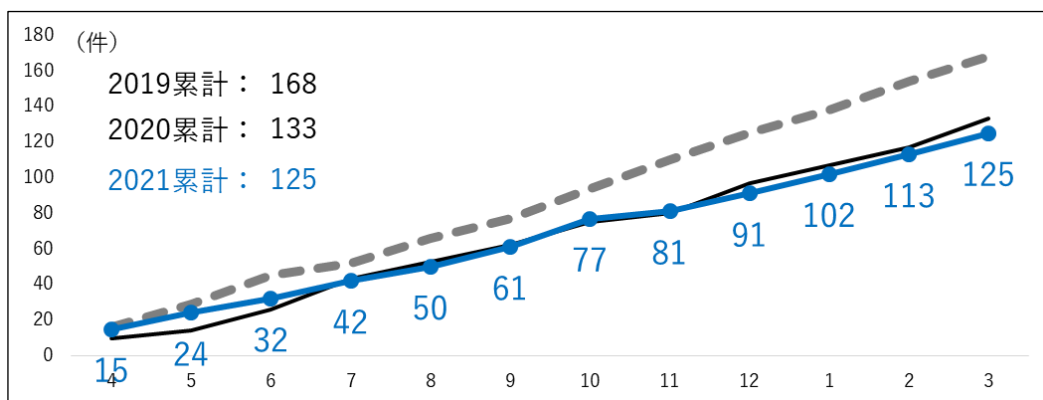
## 小児救急センター患者数



## 小児救急センター収支状況



## 分娩件数



## オ 地域がん診療連携拠点病院としての機能強化

本年度も地域がん診療連携拠点病院として、がん患者への手術、放射線治療、薬物療法等を効果的に組み合わせた集学的治療および緩和ケアを提供しました。

緩和ケアにおいては、入院患者の苦痛に関するスクリーニングを行うことで、治療前から早期介入し、治療と並行した支援を提供しています。また、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で開催できなかった緩和ケア研修会および市民公開講座をリモートで実施しました。

また、地域がん診療連携拠点病院としての機能強化を果たすため、放射線治療装置の更新を行いました。従前の機器よりも精度が向上したことで、治療精度の向上が得られるだけでなく、新たに肺の定位放射線治療が可能になるなど対応できる症例も増加しました。

## カ 地域医療支援病院としての機能強化

本年度も「紹介患者を断らない」という目標を掲げ、院内外との情報交換を密にし、紹介患者のスムーズな受入れに努めており、紹介率、逆紹介率ともに地域医療支援病院の承認要件を安定して毎月達成できました。また、本年度から新たに各医療施設とのリモートによる意見交換会を開始し、患者の円滑な転院に向けた環境整備に努めました。

また、できる限り住み慣れた地域で安心した生活の維持を目指すために佐賀

県北部医療圏退院支援ルールに基づき、地域のケアマネージャーとより一層連携し多職種協働で支援を行いました。

## キ 経営健全化対策

### (1) 経営手法の確立（B S C）

- ・ 本年度も病院B S Cを作成し全体へ周知した上で、各部署の行動計画を作成しました。
- ・ 院長ヒアリングを実施する予定でしたが、感染症の拡大状況を鑑み、開催を中止しました。

### (2) 質改善活動

- ・ 患者満足度調査を入院・外来ともに実施し、現状の把握に努めました。
- ・ 院内各所に設置したご意見箱に投函されたご意見については、速やかに対応しました。

### (3) 収入対策

- ・ 入院患者の安定的な確保、病床稼働率の維持、診療単価の向上等に努めました。
- ・ 平均在院日数の短縮や救急医療体制の維持によって、機能評価係数の改善に努めました。

### (4) 支出対策

- ・ 適切な人員配置に努め、人件費の適正化を図るとともに、委託費の適正化についても継続課題として取組みを進めました。
- ・ エネルギー管理をさらに推進し、光熱水費縮減を図りました。
- ・ 日本ホスピタルアライアンス（N H A）や日赤本社の共同購入制度を積極的に活用し、在庫管理の徹底や、より安価な代替品を導入するなど材料費削減に努めました。

## 直近5年間の収支状況

（単位：円）

年度	H 2 9	H 3 0	R 元	R 2	R 3
医業収益	7,990,501,151	8,502,767,333	8,843,688,897	7,886,661,975	8,321,341,888
医業費用	9,271,299,490	9,294,810,887	9,248,894,753	8,859,970,263	9,064,053,782
医業損益	▲1,280,798,339	▲792,043,554	▲405,205,856	▲973,308,288	▲742,711,894
経常損益	▲268,840,041	▲124,857,862	291,952,655	426,256,905	962,275,420

## ク 新型コロナウイルス感染症に対する取組み

本年度は前年度から続く新型コロナウイルス感染症の感染拡大がさらに増大し、当院は第二種感染症指定医療機関および重点医療機関として、県のフェーズに応じて、感染症病床を最大45床確保し、北部医療圏における陽性患者

の受入れを担いました。感染症病床への新規入院患者数の推移は下表のとおりです。

感染症病床への新入院患者数（月次推移）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R2	8	3	0	8	11	1	0	1	10	40	5	12	99
R3	34	71	7	16	118	49	12	5	9	96	83	62	561

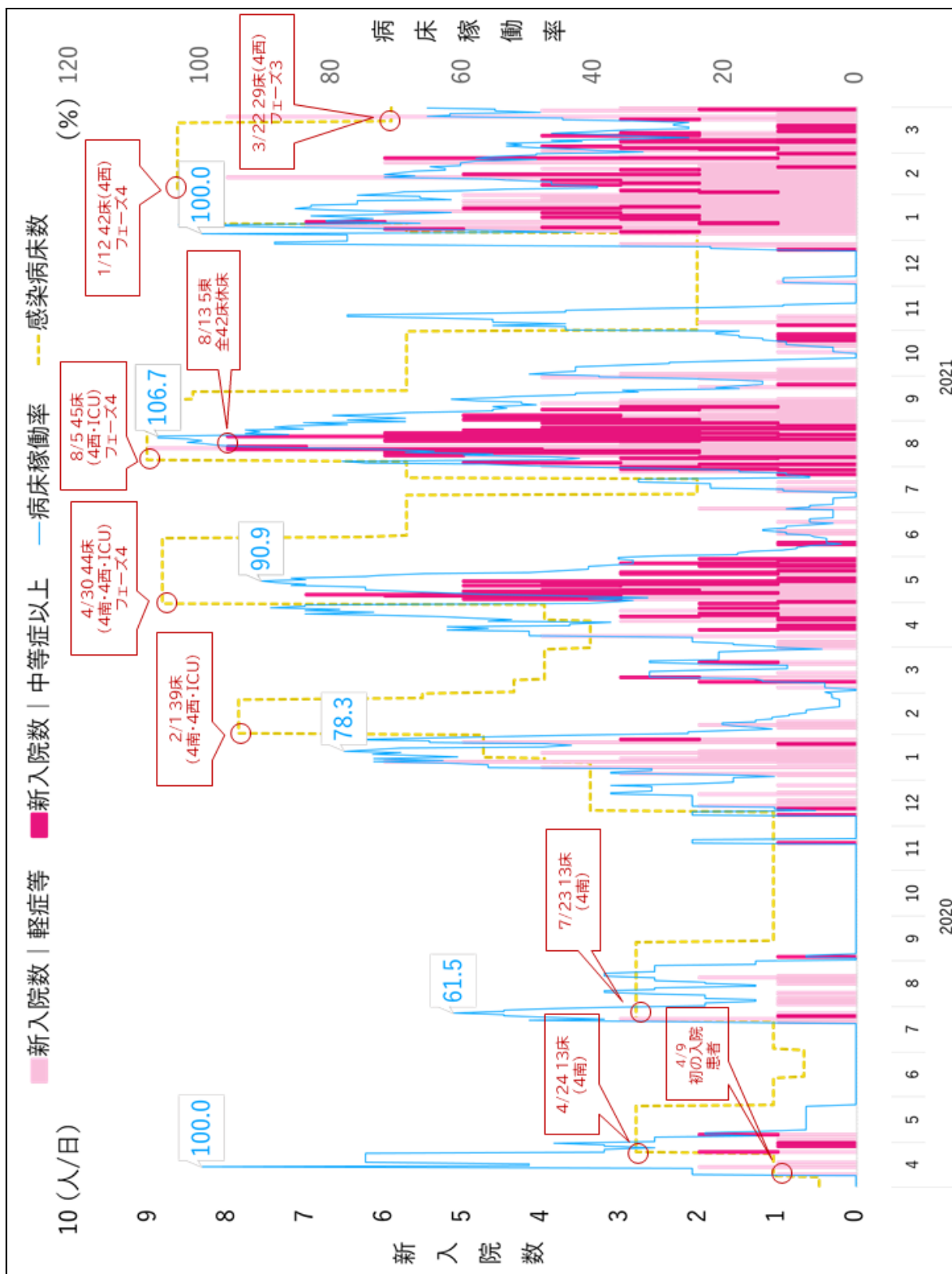
本年度は8月に患者数のピークを迎え、短期的に多くの陽性患者の受入れを経験しました。9月以降は感染状況も落ち着いていましたが、1月以降感染拡大が持続しており、当院職員にも濃厚接触者として就業停止を要する者が出るなど、通常診療の継続が困難になるほど厳しい状況が続きました。そのような状況下でも病床の再編や看護師の配置転換、予定入院の延期、生体情報モニターの新設など様々な施策によって北部医療圏の感染症医療を支えることができました。

また、当該医療圏における新型コロナウイルスワクチン接種事業においてもさまざまな形で最大限協力を行いました。集団接種や離島でのワクチン接種事業においては医師・看護師等を派遣し、個別接種においては主に当院をかかりつけとする方へのワクチン接種を行いました。

以上のような新型コロナウイルス感染症に対する諸取組みに際しては、各種補助金を適切に申請し、継続的な運用を行っています。



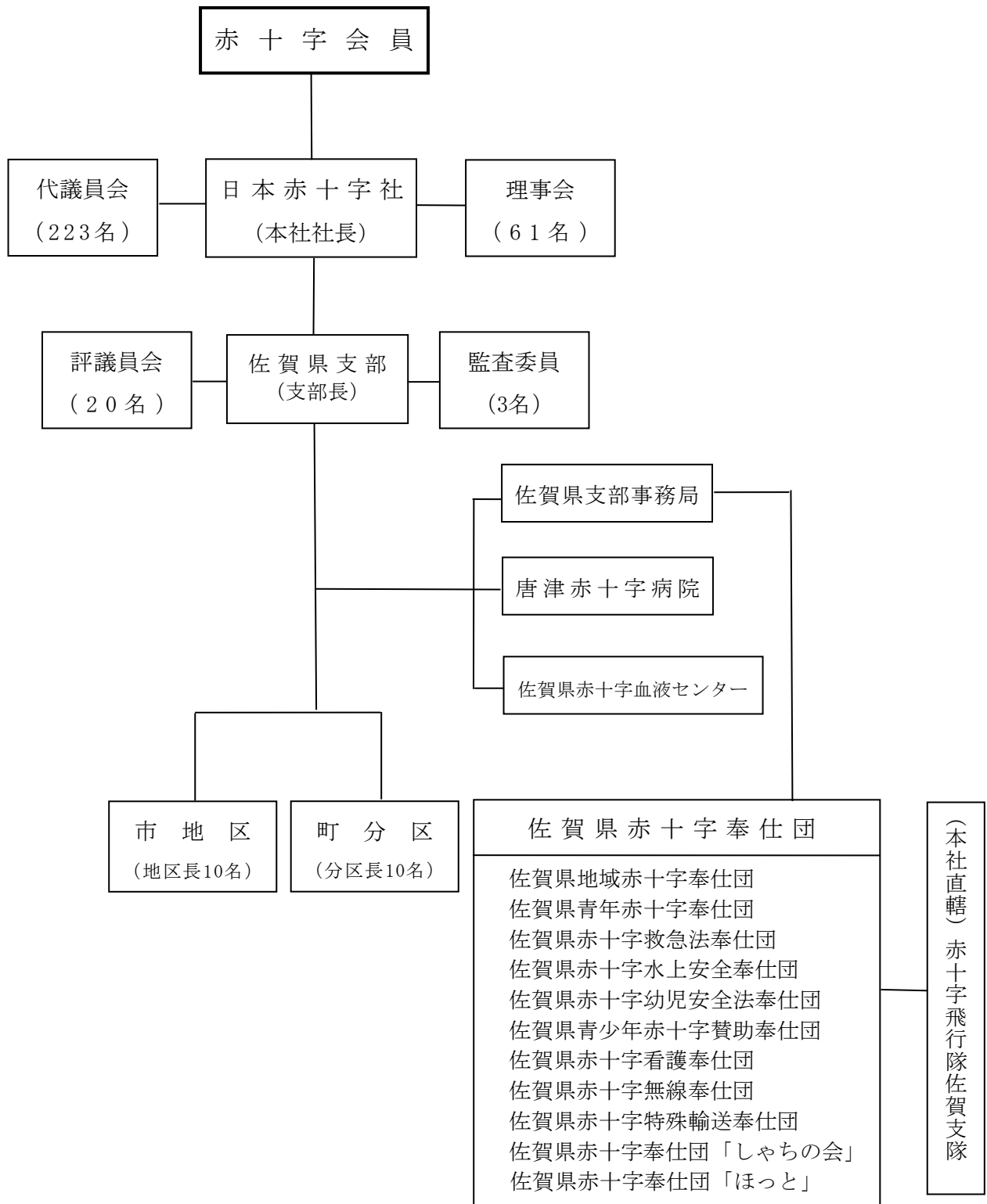
ワクチン個別接種の様子（令和3年9月7日）



# 10 佐賀県支部の組織・役職員

(1) 組織

(R4年3月31日現在)



## (2) 役 職 員

ア 支部役員（R 4年 3月31日現在）

職 名	氏 名	職 名 等
支 部 長	山 口 祥 義	佐賀県知事
副 支 部 長	南 里 隆	佐賀県副知事
	甲 斐 直 美	佐賀県健康福祉部長
支 部 監 査 委 員	西 清 澄	元佐銀リース㈱代表取締役社長
	峰 達 郎	唐津市長
	山 田 恭 輔	江北町長

イ 佐賀県支部選出本社役員（R 4年 3月31日現在）

職 名	氏 名	職 名 等
理事・代議員	中 富 一 榮	久光製薬（株）代表取締役社長
代 議 員	中 山 弘 志	（株）中山鉄工所 代表取締役社長



ウ 佐賀県支部評議員(R4年3月31日現在)

番号	氏名	支部長・地区選出の別	職名等
1	西 清 澄	支 部 長	元佐銀リース(株)代表取締役社長
2	坂 田 勝 次	支 部 長	株式会社佐賀新聞社専務取締役 経営統括・編集主幹
3	山 口 七 重	支 部 長	佐賀県地域婦人連絡協議会会長 佐賀県地域赤十字奉仕団委員長
4	伊 藤 正	支 部 長	佐賀県社会福祉協議会副会長
5	御 厨 安 守	佐賀市地区	佐賀市社会福祉協議会会長
6	小城原 直	佐賀市地区	佐賀市自治会協議会会長
7	峰 達 郎	唐津市地区	唐津市長
8	橋 本 康 志	鳥栖市地区	鳥栖市長
9	横 尾 俊 彦	多久市地区	多久市長
10	深 浦 弘 信	伊万里市地区	伊万里市長
11	小 松 政	武雄市地区	武雄市長
12	樋 口 久 俊	鹿島市地区	鹿島市長
13	江里口 秀 次	小城市地区	小城市長
14	村 上 大 祐	嬉野市地区	嬉野市長
15	松 本 茂 幸	神崎市地区	神崎市長
16	伊 東 健 吾	佐賀中部地区 (神埼郡)	吉野ヶ里町長
17	武 廣 勇 平	鳥栖地区 (三養基郡)	上峰町長
18	脇 山 伸 太 郎	唐津地区 (東松浦郡)	玄海町長
19	松 尾 佳 昭	伊万里地区 (西松浦郡)	有田町長
20	山 田 恭 輔	杵藤地区 (杵島郡・藤津郡)	江北町長

任 期 自令和4年2月14日 ～ 至令和7年2月13日

エ 日本赤十字社佐賀県支部事務局（R 4 年 3 月 31 日現在）

職 名	氏 名
事務局長	川久保 三起 子
総務課長	廣 田 聡
事業推進課長 (兼) 講習普及係長	原 香 織

オ 唐津赤十字病院（R 4 年 3 月 31 日現在）

職 名	氏 名	職 名	氏 名
院 長	志田原 哲	脳神経外科部長	鈴 山 堅 志
副 院 長	宮 原 正 晴	皮膚科部長	(欠)
副 院 長	生 田 光	形成外科部長	(欠)
事務部長	村 山 仁 志	泌尿器科部長	明 利 浩 行
看護部長	坂 本 美奈子	産婦人科部長	佐 護 直 人
病院長特別補佐	貞 松 徳 美	放射線科部長	眞 武 邦 茂
疾病予防センター長	茨 木 一 夫	リハビリテーション科部長	仙 波 英 之
医療安全推進センター長（兼）	生 田 光	麻酔科部長	嘉手川 繁 登
がん医療推進センター長（兼）	鮫 島 隆一郎	救急科部長	中 島 厚 士
教育研修推進センター長（兼）	下 田 慎 治	病理診断科部長	明 石 道 昭
救命救急管理センター長（兼）	中 島 厚 士	歯科口腔外科部長	梯 裕 恵
救命救急センター長（兼）	中 島 厚 士	薬剤部長（兼）	野 田 隆 博
患者総合支援センター（兼）	眞 武 邦 茂	医療技術部長（兼）	仙 波 英 之
感染管理室長（兼）	宮 原 正 晴	医療社会事業部長（兼）	酒 井 正
第 1 内科部長	野 田 隆 博	医療技術部技師長	永 石 信 二
第 2 内科部長	長 嶋 昭 憲	薬剤課長	岩 田 和 弥
第 3 内科部長	(欠)	栄養課長	池 田 敦 子
感染症内科部長	下 田 慎 治	検査技術課長	尾 形 正 也
第 1 循環器内科部長	森 唯 史	放射線技術課長	坂 井 征 一 郎
第 2 循環器内科部長	(欠)	臨床工学技術課長	小 池 昭 男
小児科部長	田 代 克 弥	リハビリテーション技術課長	麻 生 昭 秀
第 1 外科部長	鮫 島 隆一郎	広報推進室長（兼）	村 山 仁 志
第 2 外科部長	井久保 丹	経営対策課長（兼）	貞 松 徳 美
肝胆膵外科部長	神 谷 尚 彦	総務課長	松 本 英 成
乳腺外科部長	小原井 朋 成	会計課長	野 方 宏 紀
呼吸器外科部長	小 島 勝 雄	医事課長	徳 田 孝 久
整形外科部長（兼）	生 田 光	情報システム課長	米 倉 稔 喜
眼科部長	緒 方 正 虎	医療社会事業課長	入 江 富美夫
耳鼻咽喉科部長	(欠)	診療支援課長	岩 本 利恵子

カ 佐賀県赤十字血液センター(R 4年3月31日現在)

職 名	氏 名
所 長	松 山 博 之
事業部長	田 中 幸 徳
総務課長	廣 畑 和 代
献血推進課長	田 村 和 士
採血課長	大 町 幸 子
学術情報・供給課長	一ノ瀬 知早子
品質情報課長	大 坪 正 道
医務課長	山 本 恵 子

キ 専任職員数 (R 4年3月31日現在)

施 設 名	職員数
日本赤十字社佐賀県支部	8名
唐津赤十字病院	494名
佐賀県赤十字血液センター	30名

# 日本赤十字社佐賀県支部の現勢（令和3年度）

## 1. 沿革

明治22年(1889) 5月28日 日本赤十字社  
佐賀県委員部設置  
昭和27年(1952) 10月31日 佐賀県支部に改称

2. 会員 個人 228,788人  
法人 690法人  
(※ 協力を会員を含む社資会員)

## 3. 役員

支部長 山口 祥義 (県知事)  
副支部長 南里 隆 (副知事)  
" 甲斐 直美 (県健康福祉部長)  
評議員 20人  
  
(本社理事) 中富 一榮  
(本社代議員) 中富 一榮 中山 弘志

## 4. 青少年赤十字加盟校登録数

幼・保稚園	10園	1,143人
小学校	121校	25,600人
中学校	79校	23,035人
義務教育学校	6校	2,178人
高等学校	33校	11,333人
特別支援学校	4校	563人
計	253校(園)	63,582人
指導者数		3,633人

(令和4年3月31日現在)

## 5. 赤十字奉仕団登録数

地域	20団	3,107人
青年	1団	24人
特殊	9団	224人
計	30団	3,355人

(令和4年3月31日現在)

## 6. 講習普及活動

区分	指導者	受講者
救急法	67人	2,743人
水上安全法	29人	624人
健康生活支援講習	8人	0人
幼児安全法	19人	498人
防災セミナー	10人	1,266人

(令和4年3月31日現在)

## 7. 災害等救護

救護班	班数	5班	人員	30人
無線局	基地局	4局	移動局	64局
	救急車	2台	災害救援車	8台
車両等	災害連絡車	2台	サベメータ	1台
			線量計	42台
資器材	エアテント	4張	テント	27張
	ドフラッシュテント	1張	(イージータント)	22張
	医療セット	2組	担架・ベット	46台
	NBC 災害除染セット	1組	非常炊き出し釜	22台
救 援 物 資	緊急セット	334セット	安眠セット	421セット
	毛布	1,109枚	非常食	826食
	バスタオル	461セット	ブルーシート	106枚

(令和4年3月31日現在)

## 8. 医療事業 唐津赤十字病院

施設数	1	診療科	31科	病床数	304床
総患者数	194,186人		1日平均		
入院	82,920人		227人		
外来	111,266人		460人		

(令和4年3月31日現在)

## 9. 血液事業 佐賀県赤十字血液センター

施設数	1	車両台数	18台
移動献血車(再掲)	2台	献血運搬車(再掲)	8台
献血者数		供給数(単位換算)	
成分献血	15,417人	成分製剤	72,262単位
400mL献血	18,895人	全血製剤	0単位
200mL献血	715人		
計	35,027人	計	72,262単位

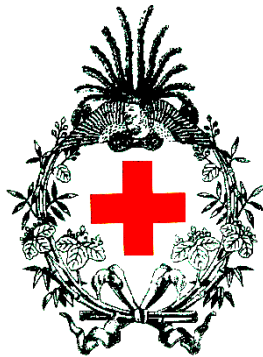
(令和4年3月31日現在)

## 10. 会計(令和3年度歳入歳出決算) 単位:千円

区分	歳入	歳出
日本赤十字社佐賀県支部	497,342	435,469
唐津赤十字病院	10,100,512	9,148,540

## 11. 佐賀県赤十字有功会(平成9年発足)

会長 池田 秀夫  
会員数 110人



**救いを託されている。**

- 日本赤十字社佐賀県支部      〒840-0843  
佐賀市川原町 2 番 45 号  
〔TEL〕 0952-25-3108 〔Fax〕 0952-25-4184
- 唐津赤十字病院      〒847-8588  
唐津市和多田 2430 番  
〔TEL〕 0955-72-5111 〔Fax〕 0955-72-9530
- 佐賀県赤十字血液センター      〒849-0925  
佐賀市八丁畷町 10 番 20 号  
〔TEL〕 0952-32-1011 〔Fax〕 0952-32-2002